



早稻田學報

大正九年三月十日發行 第三十一號 每月十日發行

勞働問題の要點

目次

學說

校報

教授 安部磯雄

新大學設立認可書下附—— 臨時維持員會—— 科長會—— 教授會—— 新高
[等學院] 々々長・教頭・教授囑任—— 評議員囑任—— 田中理事九州出張—— 科外講演—— 本年度
進級及卒業試驗—— 高等學院・高等豫科・専門部の入學試驗—— 春季休業—— 故三輪博士肖
像—— 贊助會報告—— 圖書館報告—— 早稻田工手學校卒業式—— 同講師會—— 同始業式

校友會報

學報編纂主務委員會—— 校友會幹事會—— 鹿兒島校友會—— 光淋寺會—— 新潟市校友會——
—— 八法會—— 京城校友有志小會—— 長野市早大校友懇親會—— 双葉會臨時會—— 三政會大
阪支部の發會—— 七赤會—— 大正越佐縣人會—— 廿日會

校友面影

校友 前代議士 三木 武吉氏

校友動靜

森美文氏—— 畑田保次氏の歸朝—— 崎山刀太郎氏と日本電線—— 波野平四郎氏—— 輪湖正
由氏—— 反町茂作氏と東神火災保險會社—— 業務異動—— 轉居—— 其の他——

學生會合

松本會豫餞會—— 自彊術會之創立—— 讚岐玉藻會豫餞會—— 大政三年謝恩會—— 支那協會
例會—— 都市政策學會々報—— 廣告研究會々報—— 柔道部記事

雜報

大隈總長の天機奉伺—— 平沼學長の出張講演—— 定金右源二氏と新高等學院事務主任——
高等學院入學志望者—— 坪内博士作法雜劇の上演—— 早稻田・大正兩購買組合の合併——
故本田信教君遺子教養資金應募者氏名報告——
大正八、九年度本會維持費離出者氏名報告

東京牛込

早稻田大學校友會

電話番三〇〇三

道縣總口 番六八九八

學說

労働問題の要點

教授 安部 磯 雄

二つの考察點——労働問題に就いて

二つの考へ方が有ると思ふ。其の一は、現在の状態を觀て、可成現状を段々と良い方へと導くこと、換言すれば現在を立脚地として労働問題を解決しようとするのである。其の二はズツト將來のことを考へて、結局労働問題は何處に落着くであらうかを考察するのである。即ち先づ労働問題の歸着點——或は理想といふても可い——を考察するのである。略言すれば、現實と理想との二點より労働問題を考へることである。併し今語らうとするのは現實の問題であつて、理想ではない。が乍併理想といふことは必要であつて、理想があれば夫れが標的となつて現在の問題を解決するの統一が出来る。即ち労働問題に一の主義があるからして、問題の解決に筋が立つことになるのである。然らば其の理想とは何ぞといふに、世界の労働問題の大勢を慮へて見ると、結局労働者が非常に勢力を占めることになるであらうと思ふ。労働者は多數で

ある、其の多數といふ點で労働者が産業界の權力を自ら握る時代が来るであらうと思はれる。單に夫れ丈いふと極端に聞えるかは知れぬが、姑く産業といふことを離れて政治の方面を考へて見ると、今言ふたことの決して空想で無いといふことが判明するであらう。世界の如何なる國でも、苟も文明國といはるゝ所では、盡く人民の政治である。少數人の政治ではなくて多數の人の政治となつて居る。即ち或特權階級者の政治に非ずして實に民衆の政治である。政治界が既に斯かる形勢であるからして、産業界に於ても亦確に同様のことの行はるゝことを否定することは出来ぬと思ふ。近來産業的デモクラシーなる言葉の行はるゝに徴しても明かではないか。勿論かかる理想が吾が日本に實現するまでには多くの年月を要するであらう。が併し世界の情勢は結局此處まで押し進むに相違無いと思ふ。而して是れは理想であるから是れ丈に止めておいて直に現實の問題の要點を述べやう。

一

労働者の要求點——第一労働者は何を要求するか、是が此の問題の出發點である。一寸見ると、労働者は自己の利益を要め、幸福を追及して居るかの様に思はれるが、自覺せる労働者に就て考察すると、彼等の要求は實に「公平」といふ點に存するのである。彼等の觀るところでは、今日の産業は資本家と労働者との共同で經營されて居る。然るに出来上りたる物の分配の段になると公平でなくなつて来る。如何にして此不公平を矯正するか出來やうか。此の點が實に多數労働者の最も強く感じ、又深く考慮する所なのである。若し労働者の要求が單に自己の幸福の追及のみであるならば、労働問題の始末は容易である。即ち労働問題を短縮するとか、労働時間を短縮するとか、或は彼等の爲めに低い賃金の家賃を建て、遣るとか、又は日常の必需品：特に食料品を資本家側より廉價で供給するとか、種々の方法に依つて其の幸福を圖つてやれば、夫れで問題の總べては解決すべき筈である。また解決しそに見えぬ。所が事實は決して夫れ丈では解決されないのである。といふのは、労働者の要求が單なる自己の幸福の追及といふことよりは、モット、根柢の深いところの「公平の要求」にあるからである。即ち産業組織の上に於て公平なる取扱を受けやうとして居るからである。デあるから、彼等が分配の不公平

を感じて居る間は、縱令如何に彼等の幸福のみを増進して遣つても、それを以つて満足せしむることは到底不可能であると思ふ。如斯労働者は第一に公平を要求し、而して第二に幸福を要求して居るのであるが、此點に我が資本家は未だ思を致さねではあるまいか。温情主義固より可也であるが、夫れよりもより大切なものは公平主義である。公平主義が行はれて、其の上で温情主義が加はつてこそ始めて彼等の満足を購入得らるべきである。夫の温情主義は公平主義の後に來るべきものであつて、決して公平主義の代用を爲すものではないのである。是れが我が資本家の考へ及ばざる所であらうと思ふ。

三

公平とは何——公平とは如何なる意味かといふに、歐米では此の問題が甚だ簡單である。彼等労働者は、今日の産業上の分配は不公平であるから、是を公平ならしむる爲めには自ら産業上の參與權を得ねばならぬ。今日の産業組織は全く専制政治であつて、資本家のみが總てを爲し、労働者は毫も與らぬ。故に分配が公平を失するのであると主張し、恰も政治上に於て人民が普通選舉を行つて所謂參政權を得たるが如くに、産業界に於ても亦參與權を獲得せねばならぬと要求して居るのである。此の大勢が歐米の天地に漲つて來たので、流石に彼地の資本家は自ら省みて彼等の要求を容るることになつて來たのである。實際労働者の要求は無理のない所であつて、産業は資本家と労働者との一致協力に俟つものであるからして、労働者が之れに參與すべきは理の當然であるといはねばならぬ。

四

労働者參與の方法——労働者が産業上に參與するに就ては種々の方法がある。日本では純益分配の如き方法が行はれて居る。然らば純益分配が行はれさへすれば直に公平なりと云ひ得るかといふに、今日の所では資本家の資本に對する配當には制限が無い。二割でも三割でも……五割でも配當するのは資本家の自由である。併し純益分配を實行することになると、資本家は其の資本に對する配當を定めねばならぬ。……一割なり二割なり……デ無いと純益を計算することが出來ぬから……ソシテ其の純益を資本家と労働者とが折半するなり何なりするのである。即ち分配率を定めて定款の上に之を明記するやうに爲ねばならぬ。か様な方法は外國では割合に容易く實現されるのであるが、我が日本では中々六ヶ數いと思ふ。眞に純益分配を執行する者は多くあるまい。有りとしても恐らくそれは形式であつて精神からではないと思ふ。昨

今之を實行しようとする傾向は多くなつた様に見えるけれども、而し本統に實行しようとするには、資本家は自己の會計帳簿を労働者に開放する丈の度量が無ければならぬ。デなれば、純益が何程あつたといふた所で、公明正大なることを労働者に合點せしむることは出来ぬ。此所までデモクラチツクな公正な態度を執るので無ければならぬのであるが、我が資本家が果して此所迄行き得るかどうか。恐らく帳簿を労働者に見せるのは威嚇に關するかの様に考へて、縦令不正な所は無いらぬと之れを示すことを好まぬであらう。夫れでは到底公平も參與權もあつたものではないと云はねばならぬ。單に帳簿を公開するのみでなく、一步を進めて、労働者に株を預つて株主となし、株主會議の場合には同じ出資者として列席せしめるやうにする、かくて眞に參政權……參與權が實現せらるゝことになるのである。資本家が此所まで讓歩せねばならぬのであるが、今日の我が資本家には出来そうにも無い。此様な労働問題のイロハ位の所でさへ未だ實行に躊躇して居る様では、温情主義も甚だ覺束無いこと、思ふ。現在の所では、労働者に自覺せる者が少數であるからして、今暫くは此の儘で押通して行けるかも知れぬが、而し今後彼等の多數が自覺したつた場合には、所謂温情主義のみでは到底大勢を支持し得

五

べきでないと思ふ。

眞の温情主義——温情主義を執るとしても、日本人は中々六ヶ敷いので、資本家にとりては頗る難問題であるまいか。今日では、昔の名君が臣民に對するが如くに、單に優しくするといふ體の温情主義ではダメである。若しも昔の殿様がへりくだつて百姓を親切に勞はるといふ様なことを以つて温情主義である等と思つて居るならば、夫れはデモクラシーの思想の到底容す所ではないのである。管上の方から、惠むとか施すとかいふが如き高慢な考へで彼等に對するならば、彼等は斷じて之れを有難く受ぐるものでは無いと思ふ。一體労働者が未だ自覺を有しなかつた時代……即ち我國に斯かる思想の盛ならざる時にもストライキは屢起つたのである。ソシテ其の原因は、賃銀の増額、労働時間の短縮といふやうな事を理由としたものはストライキの百中の一半に過ぎぬ……戦前の状態に於て……餘の一半は大概感情の問題である。これは友人から聞いた譯りない話であるが、其の所謂感情といふのは、多くは職工長とか技手長とかいふ者が、威張るとか生意氣であるとかいふのが原因を成して居るとのことである。全體吾々日本人は、割合に他人の威張るといふことに對する反抗心は甚だ強い。

それが畢竟原因を成すのである。であるから、吾が國のストライキは、算盤勘定の問題ではなくて、生息感情の問題である。同じくかんじやうだが非常の相違であるといはねばならぬ。要するに、我が資本家の温情主義なるものは不徹底である。眞に精神的なる温情主義ならば結構であるけれども、今日のところでは遺憾ながら左様には見られないのである。

曩頃彼の國際労働會議に出席せられた武藤山治氏が、歸朝後新聞雜誌等に其の意見を發表せられたのを見たが、氏は、「米國に在つて驚いたのは温情主義の盛んなことで、實に思ひがけ無いことであつた。日本の温情主義も亦結構である。宜しく米國に輸入して彼地に實現せしむべきである。」と陳べられて居るが、自分は、武藤氏の考へは誤つて居ると思ふ。氏は實例としてエリンコット・ジョンソン會社を挙げ、該社に於て、未だ一回も同盟罷業の起つたことがないのは全く其の温情主義に基くものであると切言せられて居るが、夫の温情主義なるものが果して吾が日本に行ひ得る所のものであるであらうか。自分は早く既に外國雜誌の上でエリンコット・ジョンソン會社のことは承知して居つたが、彼のジョンソン氏はか様なことを曰ふて居る。「吾々の會社の役員は全然労働者や使用人と同様な生活を爲して居る。働くのも一所、遊ぶのも一所

である。吾々の子供も亦彼等の子供と共に遊び、共に同一の學校に通ふて居る……」と。實に味ふべき言で、温情も此處まで徹底すれば十分である。米國なればこそ是れが可能なので、此の精神であれば、縱令ストライキが起つたにしても解決は容易である。乍併日本の資本家にそれが可能であるやうが如何。労働者の階級と自分等とは段違ひである、彼等は別社會の人間である、若も吾々の子供を彼等のと共學同遊せしむるならば、忽ち悪影響を受けるであらう……等と考へて居るやうな階級思想に囚はれたる今日の資本家に、果してジョンソンの如き態度を持し得るかどうか。恐らく不可能であらう。想ふに日本の労働問題の解決は、今後愈々困難を來たすであらう。

今の資本家は、政治と産業とを類似のものと思ふ。政治は政治、産業は産業と考へて居る。で今日の政治がデモクラチツクな民衆的傾向を帯んで來たことには注意を拂つて居るが、翻つて自家の産業界が依然として專制的なものには頓と心付かぬ様である。構むべきではないか。吾々は、産業界に於て温情主義を行ふにしても、餘程民衆的に徹底するでなければならぬと考へて居る。昔のやうな階級思想では、到底今日の労働問題を解決することは出来まいと思ふ。

六

問題解決の要——要するに前述の如き一の理想を立し、現實の問題を之れに照合して考へて見るに、彼等労働者は、幸福よりも公平を要求して居るのであるから、其の要求に應ずる爲めには、早晚労働者に參與權を附與せねばならぬであらう。それには純益分配、株券所有等も必要であらう。同時に公平主義を行ひ、前に述べたるエリンコット・ジョンソン會社の如くに、資本家がデモクラチツクになり、民衆的になつて、資本家と労働者とは、職業の別こそあれ、人間としての差は無いらぬと思ふ。現在の労働問題の解決は比較的に容易であらうと思ふ。

校 報

●新大學設立認可書下附

新大學設立に關しては、前號所載の如く、二月六日の官報にて發表せられたる所なるが、同月二十日文部大臣より

り地方廳を経て、該認可書下附相成たり。

●定時維持員會

二月七日午後三時より、恩賜館に於

て定時維持員會を開く。當日の出席者は

大隈會長 澁澤男 高田
松平伯 渡邊 昆田
浦邊 中島 金子
平沼 鹽澤 田中

●臨時維持員會

二月十二日午後三時より、恩賜館に於て臨時維持員會を開き、大學令實施に伴ふ已むを得ざる校規改正につき議せり。當日の出席者は

大隈會長 澁澤男 高田
渡邊 金子 中島
上原 松平康 増田
松山 昆田 宮田
浦邊 山田 早速
松平伯 平沼 淺野
鹽澤 田中

●科長會議

二月二十四日午後六時より、科長會議を開けり。平沼、田中、鹽澤、安部中村、金子、淺野の各科長出席。同二十六日午後一時より、平沼、田中、鹽澤、安部、田中の各科長出席。科長會議を開けり。

●教授會

二月廿八日午後一時より、恩賜館會議室に於て、聯合教授會を開き、大學部各科第一學年の課程に就て協議し、五時散會せり。當日の出席者は
平沼 五十嵐 本多 富井
富田 渡部 甲斐 片上

勝 侯 金子 神尾 吉田 享
横山 中 高橋 高杉
武信 中島 永井 中島
堤 藤 内ヶ崎 氏家 野村
内川 山内 山本 山岸
柳橋 松平 煙山 小林(久)
前橋 小室 寺尾 淺野
五來 青柳 紀尾 北澤
安部 遊 佐宮 井鹽 澤
岸本 遊 佐宮 井鹽 澤
樋口 關 杉 森 杉 山

り選出せられたる左記諸氏に對し、本大學評議員囑を任せり。

大阪校友會選出
岸本市太郎氏
鈴木茂雄氏
群馬縣校友會選出
金庭友八氏
松澤知司氏



士博輪三故

●高等學院々長教頭及教授囑任

高等學院々長 中島半次郎氏
教頭 野々村戒三氏
文學士 野々村戒三氏
助教授 今和二郎氏

●評議員囑任

二月七日、維持員會の議を経て大阪、及び群馬縣の各校友會よ

●田中理事出張

理事田中博士には、校務を帯びて、二月十六日より大阪及福岡・佐賀の兩縣に出張、同二十三日歸京せられたり

●科學講演

二月十日午後三時より、講堂に於て、岡實氏の「國際聯盟と國際勞動會議」に關する講演ありたり。

▲同月十七日午後三時より、講堂に於て、姉崎博士の「文明の回顧と展望」と

題する講演ありたり。
▲同月廿四日午後三時より、海老名彈正氏夫妻を聘して科外講演會を開けり。海老名氏には「國際聯盟に就て」と題し、又、令夫人には「歐米の婦人に就て」と題して講演せらる。
▲同月廿七日午後三時より、教授浮田博士の「人間改造論の批判」と題する講演ありたり。

●本年度進級及卒業試験

Table with columns for 學年 (Year), 授業終了 (Completed), and 試驗 (Exam). Rows include 大學部專門部 (University Department), 各第一學年 (First Year), 高師各學年 (Normal School Years), 商科 (Commerce), and 政治科 (Political Science).

○高等豫科第三期試驗期日

Table with columns for 商科 (Commerce) and 政治、獨法、英法文學、理工 (Politics, Law, English, Literature, Science, Engineering). Rows show 第一學年 (First Year) and 第二學年 (Second Year) with exam dates.

●高等學院・高等豫科・專門部の入學試驗期日

高等學院 四月一日より入學試驗施行。願書は三月十日より受付。
高等豫科 四月五日より入學試驗施行。願書は三月十五日より受付。
專門部

第二種生入學試驗は四月五日より施行。願書は三月二十日より受付。但無試験入學願書の受理は四月中とす。

●春季休業

四月一日より同七日に至る迄、例年の如く春季休業。

●故三輪博士の肖像

三輪博士の逝去につきては前號誌上に既に報ぜし所なるが、今故博士の寫眞を手にするを得たれば茲に之れを掲ぐ。尙葬儀當日、平沼學長の朗讀せられし弔辭は左の如し。

弔辭

嗚呼
三輪博士長逝ス
博士ノ閣歴功徳ハ朝野共ニ之ヲ知ル何ソ觀禮ヲ須タン
吾早稻田大學ハ大正三年以來博士ヲ邀ヘテ其ノ淵深ノ學識ニ由レル指導薰育ヲ蒙リタリ是レ吾大學ノ永ク感銘スル所ナリ
爰ニ
靈柩ヲ拜シ謹テ衷情ヲ陳ブ

賛助會報告

(第一三回)

我早稻田大學賛助會に對する滿天下の同情は依然熾烈にして其後接受したる申込口數、芳名左の如く本大學の深く感謝に堪へざるなり。
口數 府 縣 芳 名
一、一口 兵庫縣 廣石弘三郎殿

一、二口	神奈川	河野 讓殿	一、二口	同	青 賢治殿
一、二口	山梨	小林 喜幾殿	一、二口	同	山下 一二殿
一、二口	東京	木原 三殿	一、二口	同	會根原俊行殿
一、二口	新潟	大塚清一郎殿	一、二口	同	井上 輪人殿
一、二口	東京	小森 寅藏殿	一、二口	同	川口喜一郎殿
一、二口	(追加)同	崎山刀太郎殿	一、二口	同	佐々木柱二殿
一、二口	東京	尾崎 弘治殿	一、二口	同	鹽田 智章殿
一、二口	同	小柳 寛一殿	一、二口	高知	伊野部恒吉殿
一、二口	横濱	小原 純一殿	一、二口	同	西本 鐵馬殿
一、二口	和歌山	井岡喜一郎殿	一、二口	同	伊野部重彦殿
一、二口	福山	木村 謙一殿	一、二口	同	伊野部重明殿
一、二口	神戶	豊田 公平殿	一、二口	同	藤井 一信殿
一、二口	東京	江上 弘遠殿	一、二口	同	久保 熊治殿
一、二口	同	木下 忠六殿	一、二口	同	清岡 豐馬殿
一、二口	福島	遠藤 正雄殿	一、二口	同	宇田 友猪殿
一、二口	北海道	南 英一殿	一、二口	同	吉村 稜雄殿
一、二口	宮城	細谷 鏝三殿	一、二口	同	江淵 俊秀殿
一、二口	香川	山地 調殿	一、二口	同	橋本 善勝殿
一、二口	(追加)同	安達 賢殿	一、二口	同	楠瀬 如龍殿
一、三口	同	岩瀬 純一殿	一、二口	同	杉本 幸吉殿
一、三口	同	津島 太郎殿	一、二口	同	島内 植貴殿
一、三口	同	石井 宗次殿	一、二口	同	鹽見 連殿
一、二口	(追加)同	鹽田伊三郎殿	一、四口	同	中川 喜義殿
一、三口	同	鈴木幾次郎殿	一、〇口	東京	若林 成昭殿
一、三口	同	小田 榮次殿	一、二口	京都	星野富士之助殿
一、三口	同	下津 揆一殿	一、二口	東京	寺田 正殿
一、五口	同	揚 小三郎殿	一、五口	横濱	齊藤忠太郎殿
一、二口	同	山内 勝造殿	一、二口	香川	島田 恭平殿
一、二口	同	高野清八郎殿	一、二口	京都	佐々木脩三郎殿
一、二口	同	湊 力藏殿	一、二口	愛媛	石原 信順殿
一、二口	同	根津繁三郎殿	一、二口	同	和田 純殿
一、二口	同	田中 豊殿	一、二口	同	仙波良次郎殿
一、二口	同	松本千太郎殿	一、二口	同	御手洗 學殿

校友諸君に急告す

拜啓春暖の候愈々御清適の條奉欣賀候、陳れば既に再三得貴意候賛助會の儀幸に諸君の高援に依り逐次發展罷在候も未だ御申込の榮を得ざる諸君尠からず甚だ遺憾に存じ居候、然るに御賢承の通り我早稻田大學は今回愈々新大學令に據る大學たることを認可せられ候に付、今や一層其設備を整へ、内容の充實を期せざるべからざる場合と相成申候、且つ一方に於ては新高等學院の建設も既に幾んど竣工に近づき、旁々諸般の經費を要すること愈々増大致候次第に付、未申込の諸君子何卒本舉御賛同至急御申込被成下候様特に得貴意候 敬具

大正九年三月

早稻田大學

- 賛助會委員長 伯爵 松平 賴壽
 學長法學博士 平沼 淑郎
 總長 侯爵 大隈 重信

一、一口	同	高本 秀雄殿
一、一口	同	山口 元實殿
一、二口	同	大野 邦道殿
一、二口	同	新野伊三郎殿
一、五口	同	安岡 大年殿
一、一口	同	井上 要殿
一、五口	(追)同	坂本 公徳殿
一、一口	同	妹尾富三郎殿
一、一口	同	宮内保之進殿
一、一口	同	清水 義彰殿
一、五口	同	本多 議一殿
一、一口	同	向井竹次郎殿
一、一口	東京	廣月 凌殿
一、一口	同	今城 英一殿
一、一口	兵庫	廣田 義襄殿
一、一口	同	廣田 義彰殿
一、一口	長崎	岩永 武道殿
一、〇口	同	安部幸兵衛商店内
一、五口	青島	梅田 清殿
一、三口	大分	田邊郁太郎殿
一、三口	同	長野 潔殿
一、一口	同	太山 秀雄殿
一、一口	同	永松 健一殿
一、五口	同	湯谷 基次殿
一、一口	同	村上 巧兒殿
一、一口	同	菱形 重之殿
一、一口	同	相良 完殿
一、一口	同	田吹 軍喜殿
一、三口	同	狹間 千年殿
一、一口	同	利光孫太郎殿
一、二口	同	田邊 幹殿
一、一口	同	時枝 良太殿
一、一口	同	鶴木 準吾殿

一、二口	同	中里 眞清殿
一、二口	同	江渡哲太郎殿
一、二口	同	矢頭 重治殿
一、二口	同	玉川 保藏殿
一、二口	福岡	辻畑 重俊殿
一、二口	同	楠野 賢逸殿
一、二口	同	吉岡 利雄殿
一、二口	同	花井 光治殿
一、二口	同	横山利三郎殿
一、二口	同	仁科 辰殿

正 誤

前號所載贊助會申入者の芳名につき誤植有之候に付左に訂正仕候

- 一〇頁、二段、自終七行 宇都宮虎二殿とあるは 宇都宮虎二殿の誤
- 同、同、自終五行 見枝益太郎殿とあるは 是枝益太郎殿の誤
- 同五段、自終二行 堀興俊殿とあるは 堀興俊殿の誤
- 同、同、自終五行 植原弓次郎殿とあるは 植原弓次郎殿の誤
- 一一頁、一段、最終行 服本本太郎殿とあるは 服本本太郎殿の誤

贊助會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ早稻田大學贊助會ト

稱ス

第二條 本會ハ早稻田大學經常費ノ補充ヲ計ル目的トス

第三條 本會ハ本部ヲ早稻田大學内ニ置ク

第二章 會員

第四條 男女ヲ問ハズ本會ノ趣旨ヲ賛成シ一定ノ出金額ヲ齎スル者ヲ本會會員トス

第五條 本會ノ齎金ハ毎年拾貳圓ヅツ十ヶ年拂込ヲ以テ一口ト定ム

第六條 會員ハ一人ニテ齎金幾口ニテモ引受クルコトヲ得

第三章 委員長、委員及幹事

第七條 本會ノ會務ヲ統理スルガ爲メ委員長一名ヲ置キ早稻田大學理事ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 本會ノ事業ヲ補翼スルガ爲メニ委員若干名ヲ置ク

第九條 委員ハ早稻田大學總長及學長之ヲ囑託シ其任期ヲ三ヶ年トス

第十條 本會ハ會員募集事務ニ當テシムルガ爲メ本部ニ幹事及主事ヲ置ク

第四章 會計

第十一條 本會ノ資金ハ早稻田大學基金管理委員之ヲ管理ス

第十二條 本會ハ早稻田大學會計監督之ヲ檢査ス

第十三條 本會ノ會計ハ早稻田大學々報ニ依リ之ヲ報告ス

齎金の御拂込に就て

拂込の時期毎年一回(御指定の月)又は二回(例へば七月又十二月若くは年十二回則ち毎月に分割するも差支無之御指定に従ふものとす)

拂込の方法 本會の原則としては集金郵便の方法に據るも御指定あらば振替貯金又は其他の方法にても差支無之ものとす

圖書館報告

○本館一月分閱覽統計左の如し

開館日數 二十七日

種別 閱覽人員 貸出圖書數

學生貸出 一〇、二六四 一八、五九一

特別貸出 四一 九五

館外貸出 一〇七 四六〇

公衆貸出 三〇一 七一六

合計 一〇、七二三 一九、八六二

一日平均 三九六、七七 七三五、六三

○圖書新加月數 本館一月分新加圖書は總計三百二部七百六十冊にして内洋書百九十三部二百八十六冊和漢書百九部四百七十四冊なり、其細別左の如し

大正九年一月分洋書新加統計表

部 門	購入	寄贈	合計
A 歴史傳記	四	八	一二
B 法 律	二	二	四
C 哲 學	一	一	二

大正九年一月分和漢書新加統計表

部 門	購入	寄贈	合計
伊 歴史傳記	一	一	二
呂 地理紀行	一	一	二
波 宗 教	一	一	二
仁 哲學經學	一	一	二
保 心理倫理	一	一	二
法 律	一	一	二

部 門	購入	寄贈	合計
邊 政 治	一	一	二
登 經濟財政	一	一	二
知 統計報告	一	一	二
利 國文學	一	一	二
奴 理 學	一	一	二
留 教 育	一	一	二
選 小 說	一	一	二
和 支那文學	一	一	二
加 字書、語學	一	一	二
與 外國文學	一	一	二
多 美術、工藝	一	一	二
運 產 業	一	一	二
智 隨筆、叢書	一	一	二
津 體操、遊戲	一	一	二
長 兵 事	一	一	二
武 醫 學	一	一	二
福 新聞雜誌	一	一	二
奈 教科書	一	一	二
合 計	一六四	一四三	三〇七

早稻田大學 早稻田工手學校

第十五回卒業證書授與式

二月八日午後二時より、第十五回卒業證書授與式を舉行す。定刻に至り徳永校長には、卒業生二百六十三名に卒業證書を、各科優等卒業生に大隈侯爵夫人寄贈の賞品を、又各科特待生に特

待證書を授與し、續いて報告及訓示あり次いて平沼學長の演説、大隈侯爵の訓示、及來賓文學博士伯爵林博太郎氏の演説あり。終りに在學生總代飯野繁太郎の祝辭及び卒業生總代鈴木芳男の答辭を以つて式を閉づ。各科卒業生の受賞者及特待生の氏名は左の如し。因に卒業生に對する社會の需要の盛なることは實に驚くべきものにて、機械、電工、探鑛冶金の三科は、三倍強建築科は十三倍、土木科に至りては實に六十四倍の多數に上りたり。

卒業生・受賞者及

特待生氏名

◎機械科

高見文藏	京都府
小畑亨	福岡縣
高木利雄	東京府
高柳政次	茨城縣
佐々木元茂	東京府
荒木藤太郎	京都府
坂入俊雄	東京府
栗原金治	東京府
大網徳二郎	東京府
小林良	秋田縣
關徳重	長野縣
野村榮三郎	東京府
遠山清一	兵庫縣
近藤博	新潟縣
松野繁友	東京府
栗田孫枝	愛媛縣

渡邊道雄	靜岡縣
水野賢次	愛知縣
大木元公	福岡縣
大坪竹二	佐賀縣
能田勝康	東京府
橋本理一郎	新潟縣
猪木徳次郎	東京府
小川米造	神奈川縣
中田寛一	福島縣
日野水一	宮城縣
大室酒造次	埼玉縣
佐藤六八	新潟縣
村山完三郎	秋田縣
中山三郎	東京府
山崎貢	福島縣
野田誠太郎	和歌山縣
小館長右衛門	岩手縣
山田忠一	東京府
安田重一	石川縣
伊東正作	千葉縣
小澤澤秀	栃木縣
清水柳太郎	東京府
佐波一	東京府
猿谷千重	群馬縣
川名潤	東京府
黒崎謙太郎	東京府
田中耕平	三重縣
芝崎定義	東京府
河内楠衛	愛媛縣
鈴木量壽	茨城縣
鈴木誠之助	東京府
西部清一	富山縣
松野省三	群馬縣

柴田信市	福岡縣
中野良雄	宮城縣
長島顯信	埼玉縣
中島作次	新潟縣
篠原五作	東京府
松村平造	群馬縣
井本定雄	佐賀縣
岩崎祐一	山口縣
住田宗之	東京府
吉田晃四郎	神奈川縣
田中茂雄	靜岡縣
上白土悅郎	北海道
上藤秋義	熊本縣
赤松毅	東京府
大庭利生	福岡縣
中澤潤吉	東京府
奥野俊彦	福岡縣
幸谷隆記	廣島縣
直江元綱	東京府
角替茂市	靜岡縣
平方初治	兵庫縣
石川貞利	栃木縣
馬場俊一	東京府
海老原二郎	茨城縣
三木二九郎	靜岡縣
田村丑太郎	群馬縣
後藤左一郎	東京府
岡田房吉	東京府
田邊武吉	大分縣
柳和三郎	東京府
小田幹一	東京府
高松繁次郎	愛知縣
磯野勇	千葉縣

高橋爲吉	山形縣
小川佐藏	佐賀縣
溝口儀兵衛	東京府
岡村三二	山口縣
春日義	新潟縣
正法地初太郎	廣島縣
增澤三樹	長野縣
鳥井乾吉	熊本縣
田端清	東京府
根岸錦藏	東京府
小林清一	東京府
遊佐武信	北海道
三谷清美	鳥取縣
成田綱太郎	東京府
山本新左衛門	東京府
西原清	東京府
江崎五郎作	佐賀縣
殿塚鑛太	栃木縣
内田二郎	東京府
井上辰雄	東京府
小松直彦	富山縣

◎電工科

(百〇三名)

大村福太	大分縣
神戶利八	長野縣
小松茂人	長野縣
松林房雄	廣島縣
坂田喜代一	島根縣
布施實	千葉縣
三浦貞造	愛知縣
堀内重雄	山梨縣
小松利春	神奈川縣
萩原兼太郎	東京府
馬場源十郎	大分縣
關根綠	福島縣
兵藤高三郎	栃木縣
西原偵義	神奈川縣
森下純一	靜岡縣
藤田武雄	愛媛縣
清水竹雄	東京府
松本榮	神奈川縣
佐藤三馬	大分縣
福井春治	秋田縣
渡邊秋三	愛知縣
永島文朔	東京府
中山勝	大分縣
青戸正臣	福島縣
紀秀忠	鹿兒島縣
原喜久次	和歌山縣
毛利賢一	東京府
瀬尾太郎治	山形縣
野田嘉六	佐賀縣
大沼忠壽	茨城縣
鈴木一馬	靜岡縣
宮本喜三	福岡縣
芦原壽人	佐賀縣
大橋宗三郎	東京府
福井禎雄	東京府
鶴田秀男	茨城縣
柳沼正五郎	福島縣
岡田重喜	北海道
國分元三	福島縣
鈴木三郎	靜岡縣
成田貞雄	北海道
伊藤久朗	靜岡縣

池田正堂	福井縣	瀧田義市	山口縣	尾崎悅三郎	北海道	小原見	鳥根縣	川上嘉明	山梨縣	後藤定	大分縣	成田永見	宮城縣	田中岩太郎	愛知縣	井澤光一郎	山形縣	水元令次郎	宮崎縣	小野寺泰八	宮城縣	金井二郎	群馬縣	南家末雄	三重縣	齋藤近藏	神奈川縣	竹内萬三郎	東京府	松岡登	福岡縣	大久保義參	福岡縣	小西又市	廣島縣	上野義勝	福岡縣	石川一也	靜岡縣	井上平策	千葉縣	井熊春男	新潟縣	山田七司	新潟縣	樂田康行	愛知縣	米原一二	島根縣	小原慎二	東京府	北村哲	埼玉縣	本村榮二	鹿兒島縣	瀧田春吉	東京府	山田秋藏	神奈川縣	北氏秀太郎	東京府	木村儀三郎	和歌山縣
------	-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	------	------	-------	-----	-----	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	------	------	-------	-----	-------	------

磯西松	磯西松	楠木義臣	飯田早苗	小松直藏	蛇田忠次	櫻井義夫	堀盛吉	伊藤政一	河崎彌太郎	關口道賢	福島正追	河西憲次	坂口關	加谷和次郎	志尾源助	鷹野佳彦	瀧斗機三	有吉賢一	森元英治	鈴木萬助	中澤實	峯榮	小林信男	深瀬清	小林多三郎	古後衛	森勝千代	大和田德藏	今畑國彦	辛島吉之助	大分縣
茨城縣	福岡縣	愛知縣	山形縣	秋田縣	宮城縣	鹿兒島縣	福岡縣	京都府	埼玉縣	和歌山縣	山梨縣	奈良縣	島根縣	愛媛縣	東京府	京都府	福岡縣	鹿兒島縣	靜岡縣	佐賀縣	茨城縣	山形縣	岩手縣	大分縣	北海道	福岡縣	福岡縣	大分縣	大分縣		

◎採鑛科

◎建築科

堀部健雄	細田東一郎	秋山與一	田中榮作	東山實一	後藤東一	間宮信雄	篠原秀雄	中根運次郎	大塚房雄	田村佐一郎	大野滿朝	山内淳太郎	黒江景範	水上清	白鳥英吉	植野貞四智	柴田勝平	兒島好孝	佐々木潤	三輪孝次郎	西山千賀夫	長島角二	芳賀榮	渡辺菊雄	影山三子三	外山繁太郎	大矢信治	宮本茂次	長野縣
福岡縣	東京府	山口縣	富山縣	岡山縣	茨城縣	東京府	鹿兒島縣	東京府	熊木縣	大阪府	福岡縣	鳥取縣	北海道	福岡縣	千葉縣	栃木縣	福岡縣	島根縣	福岡縣	靜岡縣	愛媛縣	茨城縣	宮城縣	山形縣	東京府	新潟縣	新潟縣	長野縣	長野縣

◎土木科

渡邊留吉	金子家元	藤井正夫	本橋卯藏	篠原數善	梅澤省三	白井敏雄	大堀茂樹	佐藤豐吉	佐々木誠雄	田島武藏	藤田由太郎	高橋武雄	鈴木芳男	谷口鑷太郎	山貫之助	笹川孝三	瓜生寛次郎	辻茂	金田清八	小野口武雄	佐藤徳四郎	飯川長吉	菅野佐七	山田千稻	伴次夫	大宮吉壽	宮城縣
靜岡縣	東京府	山口縣	東京府	島根縣	東京府	山形縣	福岡縣	山形縣	北海道	埼玉縣	靜岡縣	千葉縣	福岡縣	福岡縣	愛知縣	福岡縣	新潟縣	福岡縣	秋田縣	栃木縣	福岡縣	新潟縣	山形縣	宮城縣	東京府	宮城縣	宮城縣

◎各科卒業生ニシテ大隈侯爵夫人ヨリ賞品ヲ受ケタル者

機械科 高見文藏
 電工科 大村福太
 探鑛冶金科 辛島吉之助
 建築科 篠原秀雄
 土木科 鈴木芳男

◎特待生

第一學期 須田麟聖
 第二學期 土井 扨
 第三學期 稻垣源十
 機械科第四學期 橋本得二
 電工科第四學期 横地子之吉
 探鑛科第四學期 福地丑治
 建築科第四學期 鶴田 明
 土木科第四學期 飯野繁太郎

◎工手學校講師會

二月八日午後九時、永樂俱樂部に於て講師會を開く。テザートコースに入りて、徳永校長の挨拶あり。之れに對し講師側を代表し、秋田子爵の挨拶あり、九時半散會せり。

◎工手學校始業式

二月十二日午後六時始業式を舉行、徳永校長には、新入學生九百餘名に對して一場の訓示を爲せり。尙新學期の授業は翌十三日開始せり。今學年も亦例年の如く志望者非當の多數に上り、既に一千名以上を算するの盛況なり。

(七十四名)

(三十七名)

計貳百六拾三名

(十四名)

校友會報

●學報編纂主務委員會

二月四日午後五時、永樂俱樂部に於て學報編纂主務委員會を開き、二月號學報編纂上につきて協議せり。當日の出席者は、長谷川誠也、佐藤正の兩主務委員及鈴木常務幹事なりき。

●校友會幹事會

二月十六日午後六時より、永樂俱樂部に於て幹事會を開き、左記事項に就きて協議し、同八時散會せり。

一、推選校友會考の件

各地校友會及校友より推薦せられたる推選校友に付きて考考せり。

二、春期校友大會に關する件

三月十日より同十五日迄の間に於て開催することとし、詳細は鈴木常任幹事に一任することに決す。

三、大正八年度決算の件

別表(表は略す)に對し異議なく承認。

四、規則改正の件

校友會規則改正案を大會に提出することに決せり。

當日の出席委員は左の如し。

- 平沼會長 磯部倫一郎
- 原田助之助 星野治作
- 都倉義一 小野義夫
- 翁立 旨 荻島遠
- 吉田秀人 田中小太郎
- 上井磯吉 黒田善太郎

●鹿兒島校友會

一月十四日、鹿兒島市鶴鳴館ホテルに於て、今回歸朝の校友鹿兒島新聞記者堀勇吉氏の歡迎を兼ね、新年宴會を開催す。會長日野辰次の歡迎の辭に對し堀君の挨拶あり。酒間米國政界の裏面談や、興味ある土産話に時の移るを知らず。盛會裡に散會せり。

- 出席者 水濱堀勇吉
- (校友) 日野辰次 男爵島津忠夫
- 辰地嗣麿 是枝益太郎
- 白尾寅千代 岡山秀平
- 内山尚忠 肥田實
- 八木辰守 前田久盛
- 市來政弘 西田優一
- 竹之内靜治 稻松喜一郎
- 郡山貞次郎 松元清二
- 上野秀麿 (學生) 西村等助

●光淋寺會

大正六年度商科(金融科)卒業の有志が、在學當時集つて湘南地方に旅行を行つた際、其れを記念せんが爲めに麻布の光淋寺に集つてから此の會が生れた。

- 廣田君先光
- 原田君山田君
- 佐藤君會根君
- 般場君仁平君
- 廣田君先光

母校を去つて以來未だ一回の會合も催さなかつたので、久々去二月七日思ひ出で多き日比谷の松本樓で會ひ開いた。集まつたものは左記の十名で、何れもスタイルこそ變つたが、其の氣分は在學當時と一寸も變りなく、意氣は益々壯んであつた。當夜恩師服部先生が、御多用中にも係らず、特に時間を割いて御貴臨下さつたのは、錦上更に花を添へたる趣で、本會にとりては誠に光榮の至りである。

服部先生より、慈父にも優る御教訓やら、現代社會思想並びに經濟の實際問題に就ての御高説を篤と承り、次いで互に抱負を述べる等、一同大に打寛いで、或は先年の旅行談に花を咲かせ或は自己の經驗を談する等大にメートルを揚げ、益々親密の度を加へ、談笑の何時盡きるかも知らなかつたが、あまりに時間が遅くなつたので、次回幹事を仁平君、廣田君、佐藤君に御願ひして一同袂を別つた。時に十一時第一回は實に大成功であつた。八代君柘植君の御病氣不參は残念であつた。

服部先生より、慈父にも優る御教訓やら、現代社會思想並びに經濟の實際問題に就ての御高説を篤と承り、次いで互に抱負を述べる等、一同大に打寛いで、或は先年の旅行談に花を咲かせ或は自己の經驗を談する等大にメートルを揚げ、益々親密の度を加へ、談笑の何時盡きるかも知らなかつたが、あまりに時間が遅くなつたので、次回幹事を仁平君、廣田君、佐藤君に御願ひして一同袂を別つた。時に十一時第一回は實に大成功であつた。八代君柘植君の御病氣不參は残念であつた。

- 服部先生 (先輩) 命尾君
- 佐藤君會根君
- 般場君仁平君
- 原田君山田君
- 廣田君先光

●新潟市校友會

我が校友會は、二月七日錦茶屋に於て、慶應大學の校友諸君と聯合して、後れ走せながら新年宴會を催した。幹事齋藤庫四郎氏は、開會の辭として「我が早稻田大學及び慶應大學は、夙に私立大學として帝國教育界に一大權威を有して居るものである。而して過去數十年間、各母校の教育方針に基きて大學教育に盡瘁した。其功績の顯著なる所より、本月六日を以つて帝國大學令に依る大學たることを公認されたのである。這は當然のことであるが、母校の光榮とするところなるを以つて、我々校友は、此際大に祝賀の意を表せんが爲めに、茲に併せて本會を開くに至つたのである。」との旨を述べられた。酒酣なるに從ひ何れもデモクラシイ黨の本領を發揮し、氣焰萬丈殆當るべからざるの勢であつた。大に有意味の宴會なる丈に、吾人は斯る氣勢の高潮するのを見て覺えず快哉を絶叫せざるを得なかつたのである。閉會したのは九時過、會せる者は左記の諸君であつた。(舟崎生)

- 上野喜永治 松井郡治
- 廣島一郎 舟崎仁一
- 荒川謙二 安藤文祐
- 高橋銳二 石塚三郎
- 鈴木醇二 本間勇
- 石澤正雄 清水修策
- 鹽谷健次郎 今川幸吉
- 若松新二郎 小出喜八郎
- 本田伊平 笹川加津惠
- 齋藤庫四郎

●法會

大正八年度大學部英法科卒業生より成る八法會は、兼ねての打合せの如く、去る二月十日紀元節前夜午後六時より、小川町常磐に於て、其の第一回春季會合を催せり。參會者小數なりしも、頗る家族的にして歡談盡くる所無く、和氣緩々裡に十時散會せり。當夜の出席者は次の如し。

- 飯島大惠作 阿部新八
- 上村春馬 橋本千畝
- 三宅朝茂 芥潔

●京城校友有志小宴

京城校友會の津田鐵雄、古城龜之助、奥山直毅、中島司及び板橋菊松等の諸氏は、全羅南道知事亥角仲藏氏(校友)の入京を機とし、二月十日午後七時より當地「はつね」に於て同氏歡迎の小宴を催し氣焰を揚げた。(京城校友會報)

●長野市早大校友會親親會

二月十一日紀元節の佳日を下し、校友小瀧辰雄氏の經營する信濃日日新聞社にては、母校教授内ヶ崎作三郎氏を聘し、長野市三幸座に於て改造大演說會を催したるが、當日は尺餘の大雪なりしにも拘らず、熱心なる聴衆堂に満ちて盛會を極めたり。尙當日演說會に先ちて、内ヶ崎教授の來長を機とし、當地校友の親睦會を城山公園勝景の地なる萬佳亭に於て催したるが、左記の諸氏來會し、雪の川中島一圓を眺めつつ清宴を張り、胸襟を披きたる歡談

に時を移し、本年の夏季休暇に大會を開くことを申合せ、母校に昇格の祝賀文を送ることに決し、早稲田精神の高潮を期して散會せり。

出席者氏名(來會者順)
平岡伴一(長野中學教諭)小瀧辰雄(信濃日日新聞社長)内ヶ崎教授、

若林忠武(星代中牛馬會社主)高江幸彦(長野工業學校教諭)村松藤太(辯護士)川田繁太郎(實業銀行支配人)宮下友雄(諸會社重役)清水千太郎(法理學研究家)

●双紫會 (四十四年前科出身京濱在住者會)臨時會

二月十三日午後五時、本會例會場なる永樂俱樂部に於て臨時會を開く。出席せるもの左記三十五名。安田清雄氏幹事を代表して開會の辭を述べ、引續き會務の報告を爲し、決算の承認を求め、次に幹事鈴木佐平次氏より會員木村賢三郎氏令閨の不幸を満場に報告し、會員西岡、奈良兩氏の發議にて同氏に對する弔慰法に付ては幹事に一任することに決し、夫より母校教授五來欣造氏の講話に移りたり。鈴木幹事の紹介ありたる後、同教授は演壇に立ち、社會問題に關する最近の思潮に付き其該博なる蘊蓄を傾倒し、一時間以上に亘り、熱心眞率に講演せられ、來聽者(當日は會員以外永樂俱樂部員にも自由)に聽講を許したり)一同に多大の感動と満足とを與へたり。右講演後食堂を開く。待するに紅裙なく、席に

絃歌の起るなき極めて地味なる宴なりしも、水入らずの會合として、互に胸襟を開き、或は既往を談じ或は將來を語り、其間自ら滋味を生じ、さながら春風堂を吹くの趣ありて、近來になき打解けたる會合なりき。

因に當夜會員中より、本會の基礎を強固ならしむるが爲め、舊級友中より基金を募集しては如何との話題出で、出席會員中にて、反岡氏其他二三のものは應分の寄附を爲すべき旨内諾せられたれば、本會は今後一層隆盛を期待し得べし。

昨秋杉山義夫君(東洋經濟新報)大阪詰のとして來任し、最近復た山崎義雄君(日本石油)が大飯店に轉任せるを機とし、三政會大阪支部を設け、其の第一回會合を二月十四日に道頓堀はり半に開いた。來會者は
伊丹春治郎君(日本鋼管會社大阪分工場)鷲谷武君(大阪毎夕新聞社長)山崎義雄君(日本石油會社)杉山義夫(東洋經濟新報社)
田中俊三君(芳賀商會)は已むなき差支の爲め不參された。尙大阪には、上山正雄君(大日本紡)岸崎寅夫君(高田商會)神戸には錦織重之君(鈴木商店)等の諸君のあることを後で承知し、通知洩れしたのを遺憾に思つて居る。尙三政會大阪支部事務所を北區堂島中通一丁目大阪毎夕新聞社内に置くことにした。

●第五回七赤會
三月二十日(土)午後六時より、神樂坂吉新にて、除障會歓迎を兼ねて開會の筈。

●大正越佐縣人會
三月二十日(土)午後六時より、永樂俱樂部にて開會の筈、大正年度出身越佐縣人諸君は、奮つて御來會下さりたし。會費金貳圓。

●廿日會の延期
京濱在住香川縣校友の團體たる廿日會は、來四月開會の定めなれども會

- 出府氏名(幹事報)
- 井口龜二郎 入澤忠次
 - 石井良藏 早川純一
 - 橋戸義雄 西岡清
 - 大山嘉藏 小笠原幾次
 - 大竹毅 大内進
 - 若林正 聖加藤孝三
 - 金子美隆 神奈川臺人
 - 金子寅雄 川俣國治
 - 横山壽惠 榎吉本正也
 - 横井順造 横山壽三郎
 - 反町茂作 筒井常丸
 - 奈良秀治 中田詔
 - 江川鐘一 栗原雅信
 - 山口金伍 安井盛藏
 - 安田清雄 松田鍊
 - 小柳寛一 榊原文右衛門
 - 下村正治 清水覺夫
 - 鈴木佐平次

●三政會大阪支部の發會

今議政壇上の鬪將は? : : : といふならば、先づ校友三木武氏を擧げて以て之に應ふることを否むものはあるまい。氏は三十七年の法律科出。卒業の時は未だ二十歳にもならぬ一青年。判檢事辯護士試験に應ずるにも年齢不足の無資格者であつた。マヨ今少時研究を續けやうと圖書館の事務員となり、居ること三四個月、轉じて日本銀行に入つた。トコロが間もなく門司支店詰を命ぜられた。かれこれして居る中に日露戦争も終末を告げて、翌年司法官試験として東京地方裁判所へ出ることになつた。當時の裁判所長は母校での恩師鈴木真三郎博士である。大に博士の鍾愛を被つたが之れも適所ではなかつた。一事務員一銀行員一官吏。かゝる尋丈の汚瀆は氏の如き香舟の魚の棲家たるべくもない。モット天空海淵なる... 飛は

面影

前代議士 三木武吉氏

て居られやう。ペンを投じて會場へと走つた。が熱情は遂に氏を咬つて飛入辯士として演壇に立たしめた。舌端を迸り出づる言々句々が何であつたかは想像に難くはない。果然翌日の新聞紙は麗々と之を掲げた。: : : 昨日日本銀行員三木武氏大に政府を攻撃す: : : とある。驚いたのは支店長殿。早速氏を招んで詰問の一幕となつた。が氏は固より覺悟の前。今は國家危急の際ではないか。政府の一銀行員たるの故を以つて國家の危急を默過するに忍び得やうか。と辭令をも待たずにサツサと行李を收めて東京へ引上げた。翌年司法官試験として東京地方裁判所へ出ることになつた。當時の裁判所長は母校での恩師鈴木真三郎博士である。大に博士の鍾愛を被つたが之れも適所ではなかつた。一事務員一銀行員一官吏。かゝる尋丈の汚瀆は氏の如き香舟の魚の棲家たるべくもない。モット天空海淵なる... 飛は

うと躍らうと汝が自由に委任するといふ世界があるべきである。間もなく官吏の衣を脱いで去つた、辯護士界に投ずるの準備……否夫の飛躍自由の世界たる政治界に入るの準備として原嘉道博士の門を叩いた。それが抑今日の序幕であつたのである。斯うした曲折多様な行路の中に、縦横自在、何等凝滞する所なき氏の面目が躍如として居る。

二

過ぐる日の朝、霰たばしる空合を氣づかひながら、築土八幡前なる氏の事務所を訪れた。昨日までは議場に舌戦の火花を散らして奮闘しつゝ、あつた身の、議會解散で局面は急轉直下、ト息を吐く間もなく、今日は早や踵を返して選挙場裡を馳驅せねばならぬとあつて、準備の眞最中らしい容子。洋風の新しい二階の應接間で、敷島の煙豊かにくゆらしながら、キビノした調子で語るは得意の政治談。聴くたに氣持がよい。

江藤君が逝かれてから、政友會中には早稻田の勢力は聊か凋落した感もあるが、國民黨や憲政會では早稻田の勢力は實に大なるものである。殊に憲政會では其の中心を爲して居るのでそれが形の上に表はる、は却て他の嫉視を買ひはしまいかと、何かにつけて躊躇する位であ

る。而し實際の所、黨議黨略に與るものも、鬪將として壇上に立つものも、敵味方共に早稻田出身であるので、議會が全く母校の擬國會の様な感に充さる、のである。恐らく今後十年間は、我が國の政治家といふ政治家、議場の鬪將といふ鬪將は、早大の獨占に歸するであらうと思ふ夫れが果して母校の爲めに幸福であるか否かは別問題だが、兎に角



前代議員 三木武吉氏

即權力の世の中なので……。而し聊か慰めらる、は、商科出身の人々が漸次財界に地歩を占むるに至ることと、若し今後十年の後、是等の人々の發展に依り、財力の後援を得るならばと囑望して居るのである。而し十年の後には、現在の勇將も過去の人たるを免れぬ。然らば現在の政治的勢力を何時迄も維持し得らる、であらうが、杞憂なきを得ない。と

過去三十餘年間の學校の苦心經營が、今日此の偉大なる力を結果したのである。是に於て吾々は、大隈老侯・諸先生・先輩に對して厚く感謝すると同時に、大に之れに報いる所が無ければならぬと固く心に誓つて居る次第である。只憾むらくは言論の雄には豊かであるが、財力の豪に於て貧しき事である。何分金力

思ふと、偉大なる人材の輩出が切に望ましい。

兎に角現状では、政界の一大中心勢力は敵味方共に早稻田の手に歸して居るが、單に政治のみならず、新思想でも又新運動でも、新しいといふこと、早稻田とは必ず何等かの交渉を有つて居らぬことはない。何故であらう？。一つは勿論學校

教育方針の進取的なるに原因するであらうが、學校の授くる知識も十年の後には舊知識となるのであるから、早稻田の新しいのは知識の新しいではなくて、新しい知識の慾求が旺盛なるにある。此の點に於ては帝大出でも慶應出でも、吾が新知識吸収の事に汲々たるには比すべくも無いと思ふ。尙見逃してならぬ一事は、大隈老侯より受くる影響感化であらう。侯の新知識と知識慾の旺盛とは、壯者も遠く及ばぬ所で、夫れより直接受くる新知識と、其の態度より受くる感化とが、清新劑の不羈の注射となつて、吾々をして、政治に文學に、思想に事業に、新らしきもの、先驅者として天下を統率せしむるに至るのであらう。是れが實に吾等の誇とする所である。

三

すこともあるまいが、デモ……ネ。と唇頭を洩れ出づる強い言葉の中にも、愛校的精神の奥床しさが窺はれる。

話頭が轉じて選挙談に移ると、

代議士生活に入つたは大正六年の寺内内閣の時で、随分苦戦を爲した。が何にせよ牛込は早稻田派の發祥地なので、校友とも知らずに訪問すると、イヤ僕も何年度何科の出でワザ／＼運動に來て呉れずとも無論だ。尙某の方面へも運動するから……と挨拶されると、親兄弟に逢つたやうな感がして、同窓の温情にホロリとさせられる。今度も勢ひ起たざるべからざる羽目になつたので、苦戦は固より豫め期する所である。ナアニ競争は自分の尤も興味を感ずる所で、大敵なればなる程更に一層の勇氣が鼓舞されて痛快味を感ぬるのである……

と意氣軒昂たるものがあつた。牛込!! 早稻田派の發祥地!! 是を根據地として起つた氏は、如何なる敵を向ふへ廻はして輪贏を争ふこととなるであらう?。而し何れにしても、全校友は勿論、雄々しい氏の味方として、人生意氣に感ずるの士の投ずる清き一票……又一票の總計が、最高點の花環を捧げて、再び氏を議政壇上に送るであらうことに疑ふ餘地はあらず。

校友動靜

森美文氏

久しく東京株式取引所に在りし森氏(三四、英政)は、今回新に設立せられたる大連株式商品取引所理事となり、先頃同地へ赴きたり。

畑田保次氏の歸朝

大阪朝日新聞特派員として久しく米國に在りし畑田氏(三六、大政)には、先頃歸朝せり。

崎山刀太郎氏と日本電線株式會社

前號廣告欄に掲げたる日本電線株式會社は、古河家傍系會社にして、校友崎山氏(三八、大政)専務取締役として經營しつゝ、あるところなるが、會社の製品は、一般需要者の好評を博し、殊に時局以來會社の事業は著しく發展し、昨今註文幅濶到底其の要求を満足はざるの盛況にありといふ。

波野平四郎氏

十年來東京地方裁判所判事、又は横濱地方裁判所判事等として令名ありし氏(四一、大法)は、今回辭職の上辯護士並に特許辯理士の業務に従事すること、なれりといふ。因に事務所は、東京は京橋區北紺屋町四、(電京橋八九六)。横濱辨天通五丁目九〇、(電本局一〇七三)、自宅は横濱市岡野町五三なり。

輪湖正由氏

輪湖氏(四二、專政)には、今回鐵道院を辭して株式會社杉本醫療器械店に入社、専務取締役と爲る。

反町茂作氏と東神火災保險株式會社

豫わて校友浦邊襄夫・池田龍一・反町茂作及び其の他の資本家等に依りて計劃せられたる東神火災保險株式會社(資本金五百萬圓)は、過般創立總會を開きて一切の設立手續を了し、浦邊・池田の兩氏は取締役、反町氏(四四、商科)は専務取締役として會社の經營の任に當ることとなり、既に一切の準備を整へ、大阪・京都・神戸・名古屋・横濱・福岡・仙臺等には支店若くは出張所を、又全國各地には代理店を設置し、愈々三月一日より營業を開始し全國に向つて一時に活躍を試むるといふ。

校友會員名簿正誤(印ハ訂正ノ部分)

頁	段	氏名	正誤
二〇	一	奥村千太郎	大防朝日新聞記者
二二	二	岡田信高	牛込區河田町元、四方
二二	三	石塚與八	三重縣木本區裁判所檢事
二二	三	大坪又助	大坪又男
二二	三	島津忠文	島津忠夫

いは別表

三五	大坪又助	大坪又男
三六	小林差文	小林き文
三六	島津忠文	島津忠夫
三六	島津忠文	島津忠夫

業務移動

- 敬則(三四邦政) 内外信託商事會社德島支店勤務(德島縣寺島町木町北二五九)
- 坂本幸太郎(三七邦政) 旭川區商業會議所第一次書記長となる。
- 大島正一(三九專政) 古河鑛業會社より足尾鑛業所に轉勤(栃木縣足尾銅山掛水)
- 新屋茂樹(四〇專政) 横濱市住吉町五丁目東京日日新聞支局に轉ず。
- 山崎義雄(三專政) 大阪市中之島六丁目日本石油會社に轉勤
- 襲地直平(四專政) 北辰炭鑛會社小樽支店員となる(小樽區稻穂町東七丁目二五)
- 依谷山之助(八專政) 東海生命保險會社勤務
- 小野松彦(二三英政) 京都市下京區四條通鳥九西入鴻

池銀行京都支店長となる。浦川數之助(三三六英政) 軍艦薩摩主計長兼分隊長となる。

(大政)

- 久保義美(四〇大政) 東神火災保險會社に入る(牛込區若松町七六)
- 小林理貞(四四大政) 札幌區南一條西五丁目日清生命保險會社北海道支店に轉勤。
- 大木康孝(二大政) 日清生命保險會社滿洲支社長となる(大連市出雲町ケ區二九)
- 今西謙也(五大政) 東京毛織會社を辭し上毛モスリン會社東京事務所に轉ず(麴町區三番町五二)
- 長谷部天信(五大政) 國民新聞經濟部記者となる(當分芝區西久保神谷町二六村田方)

(專法)

- 古橋林司(三九專政) 鐘紡を辭し大阪東成郡城北村天滿織物會社工場に轉勤。
- 平下清榮(八專法) 横須賀市深田二六〇安東法律事務所に入る。

(英法)

- 二瓶治夫(八英法) 滿鐵本社商工係となる(大連兒玉町八ノ一中西方)
- 石澤亨助(四三大英) 日本橋小傳馬上町一三石河商店貿易部に轉勤。
- 堤 淨祐(四四大英) 大連市滿鐵本社販賣課勤務。
- 朝比奈茂(四四大英) 姫路中學校教

諭を辭し株式會社多木製肥所勤務。(姫路市柿伏七二) 兵頭貞武(三六英) 東京電氣會社秘書課員となる(府下入新井町新井宿一四六一)

(商科)

- 岡崎主計(四大英) 大阪朝日新聞記者(大阪府北河内郡三郷村)
- 山本敕(八大英) 日本橋區木石町三ノ一ロメオ商會勤務。
- 今井敏行(四一商科) 丸の内東亞通商會社勤務(牛込區矢來町一八)
- 八木實(四一商科) 東京瓦斯會社を辭し日本建築紙工會社勤務。(市外西巢鴨町九八一)
- 三島良藏(四一商科) 京橋區桶町郡山紡績會社東京支社勤務(小石川區大塚仲町四一)
- 小林邦藏(四二商科) 淺野物産會社横濱支店に轉勤(横濱市花咲町五、七二)
- 稻垣伯勝(四三商科) 東京朝日新聞社より大正日々新聞經濟部長に轉ず。(兵庫縣武庫郡蘆屋遊園池四三八)
- 加藤憲三(四四商科) 西比利出征より凱旋名古屋市西區泥江町倉庫會社に入る。(名古屋市東區西魚町一ノ二)
- 初谷嘉一郎(四商科) 横濱書上貿易部勤務(横濱榮町一ノ二)
- 加藤喜太郎(四商科) 横濱市山下町エイ、エス、ローゼンソール社勤務。

(横濱市井土ヶ谷町六〇〇)
●山川英藏(4商科) 島津製作所大連出張所勤務。(大連市越後町通若狹町角)

●西岡菊馬(5商科) 横濱市外保土ヶ谷鈴木商店製油所に轉勤。
●井口武夫(6商科) 大阪市東區安土町瀧定會社大阪支店勤務。

●岡正太郎(6商科) 大阪府中本町中興鐵工所大阪營業所に入る。
●尾澤平一郎(7商科) 村井銀行へ轉勤。

●小島文雄(7商科) 秋田縣三菱尾去澤礦山勤務。
●柴田勝(7商科) 明治生命保險會社に轉勤(本郷區本郷六丁目三一揚名館方)

●渡邊 近(8商科) 八幡製鐵所倉庫課勤。(務八幡市中央區六丁目麻生方)

●賀田以武(8商科) 山口縣阿武縣格郷東分村裁製絲會社勤務。
——(理工科)——

●久田久太郎(3電氣) 岐阜縣船津町土發電所轉勤。
●高田勇雄(6電氣) 姫路市神谷町山陽水力電氣會社出張所轉勤。

●木沼寛(4建築) 陸軍を辭し南滿鐵道會社技術局建築課に入る。(大連市外沙河江滿鐵社宅十一號ノ一)
——(高師)——

●土生武猷(8國漢) 萬朝報社を辭し東京日々新聞紙に入る。

●高木稻水(8國漢) 教育時論記者を轉し京橋南傳馬町星製藥會社廣告部に入る。
●江戶千太郎(4〇歴史) 領事官補として天津總領事館に在任。

●德山眞次郎(三八英語) 岐阜市立商業學校に轉任。
●田村六郎(四二英語) 第二横濱中學校に轉任(横濱市青木町反田町八二〇〇)。

●矢野義夫(四二英語) 神戸市立神港商業學校に奉職
●北村松丘(5英語) 和歌山縣立中學校に轉任。

●谷 常治(8英語) 寇山縣立魚津中學校に教諭となる。
——(推選)——

●村上道保(5推選) 明知町長を辭し濃明銀行事務取締役に就任。

轉居

——(教職員)——
●前島 彌(評議員) 牛込區余丁町一〇五
●宇都宮鼎(講師) 府下下戸塚六四二

●村井知至(舊講師) 四谷區片町一二
●田井善道(工手學校) 府下戸塚町源兵衛二一六
●片山利久(賛助會主事) 牛込區天神町六五

——(邦政)——
●谷新太郎(一九邦政) 府下中野町一五八二

●及川勇五郎(三六邦政) 小川區小日向臺町ノ二八日本基督學校教會

——(專政)——
●塚越孝次郎(4專政) 本所區向島仲ノ郷一七〇
●相良 完(6專政) 大分縣東見郡別府町流川
●井上松雄(7專政) 市外巢鴨町上駒込一六五
●中西公信(7專政) 大牟田市巾島町今井方
●佐久 重(7專政) 神戸市榮町通山下汽船會社内

●林田 庸達(8專政) 名古屋市外千種町殿里公一三
●竹内種雄(8專政) 牛込區榎町二八安井方

——(大政)——
●安田善造(三九大政) 熊本市外本莊村三一〇
●福地福次(四〇大政) 赤坂區仲ノ町二〇
●尾崎弘治(四一大政) 府下吉祥寺井ノ頭

●中野登美雄(5大政) J.H.U. Hoome wood Baltimore md, U.S.A.
●岩城久雄(6大政) 廣島市臺屋町二六
●利泉慶三(7大政) 大阪東區谷町二ノ四一
●立花貞尋(7大政) 市外下戸塚三五二

●村井久太郎(7大政) 北海道夕張町若菜邊社宅二一ノ七

——(邦法)——
●小河滋次郎(一九邦法) 兵庫縣武庫郡住吉村
●田邊英生(二九邦法) 本所區相生町四ノ二四加藤方
●山口梧郎(三三邦法) 大阪府南河田郡富田林稅務署内
●小林嶺雄(三三邦政) 福島縣若松市區裁判所

——(專法)——
●石 房吉(三九專法) 府下瀧野川町田端七七
●西野開半次(6專法) 小石川區關口水道町三四
●福永元實(6專法) 府下西巢鴨町巢鴨九五五古内方

●外岡茂士郎(8專法) 本郷區根津西須賀町五
——(邦行)——
●越智通達(三四邦行) 愛媛縣周柴郡國安村

——(大法)——
●高木秋男(5大法) 小石川區關口駒井町一一白井方
——(英法)——
●小林光次(6英法) 奉天朝鮮銀行支店內

——(文學科)——
●渡邊 隆(四三人英) 府下西大久保一〇
●鹽路敏郎(四四太英) 岐阜市原町二ノ三
●岡本春潮(3大英) 廣島縣蘆品郡網

●引村 平木繁信(5大英) 牛込區築土八幡町二四植木屋旅館内
●岡崎三郎(8大英) 市外雜司ヶ谷龜原二三

——(商科)——
●向山政恕(四一商科) 高崎成田町王紅積方
●榎谷留吉(四一商科) 芝區三田松坂町一八

●岡武諭一(四三商科) 府下大森山王二一三〇
●清水覺夫(四四商科) 本郷區駒込林町二一〇
●西尾喜太三(四四商科) 大阪市東區北濱二丁目日本勸業銀行

●入澤忠二(四四商科) 府下大井町庚塚四九五四
●辰巳善治部(四五商科) 京橋區東京朝日新聞社
●宅間光次(2商科) 日本橋區箱崎町二ノ三

●月本策彌(5商科) 大阪市南區天王寺直法院町五、四三〇北村方
●式 正次(5商科) 大阪市北區梅田大正日々新聞社内
●本橋儀三郎(5商科) 府下巢鴨町二〇九

●石川了吉(6商科) Marushin Shop, 211-1 290 Broadway New York.
●德永代一(6商科) 横濱市青木町幸ヶ谷三六九、池上方

●布金賢一(6商科) 大阪東區北久太

郎町一久保方

●高橋春一(6商科) 朝鮮所義州多田商會内

●奥谷庄治(7商科) 木所區押上町二三五

●山内小枝(7商科) 日本橋區北新堀町一鹿商店内

●松島晋松(7商科) 麴町區元平河町四中村方

●藤沼春吉(7商科) 兵庫縣御影町山口銀行社宅

●蘆田秀雄(7商科) 小石川區關口臺町六

●四五天正貫(7商科) 横濱市本牧筑輪下町三九八

●千草久吉(8商科) 大阪歩兵第八聯隊第六中隊

●大木 正(8商科) 牛込區細工町一

●岡見正清(8商科) 大連市寺島通一號地芳陽館

●高田秀正(8商科) 大阪下濱寺公園一六園

●楢岡太郎(8商科) 府下千駄ヶ谷四二九

●丸岡重亮(8商科) 津市京檢校町

●收野 讓(8商科) 鳥取歩兵第四十聯隊第八中隊

●佐伯馬五郎(8商科) 牛込區天來町三山里二ノ十四號岡田方

●眞野官一(2電氣) 京橋區明石町三一竹内鐵業社内

●杉浦啓二(6電氣) 804 Monroe st; Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

●萬里小路元秀(4建築) 府下千駄ヶ谷四三一

●赤堀正英(5國漢) 京都市烏丸通上立賣上ル工業學校内

●寺尾和事(8國漢) 和歌山市難賀屋町東ノ丁

改 姓 名

杉原吾策(6商科) 日下部と改姓。

吉野治郎八(8建築) 平野と改姓。

東郷恭介(8國漢) 吉田と改姓。(府下西大久保七一)

●大正七年專門部政治經濟科得業 佐 藝 久 隆氏 (大正八年十二月十四日死亡)

●大正六年專門部法律科得業 (大正九年一月十二日死亡)

●明治四十一年大學部英文科得業 金 子 清氏 (大正九年一月十三日死亡)

●明治四十五年大學部商科得業 土 屋 梅 良氏 (大正九年一月二十三日死亡)

●大正八年大學部英文科得業 太 田 一 市氏 (大正九年一月十六日死亡)

●飯田幸吉氏 (明治四十四年大學部商科得業)

●酒 井 登氏 (大正九年二月五日死亡)

●大正五年大學部文學科得業 (大正九年二月六日死亡)

●松 岡 良 榮氏 (大正五年推選校友)

●大正九年二月十日死亡

●原 皎氏 (大正六年大學部政治經濟科得業)

●大正九年二月十九日死亡

●上 田 俊 介氏 (大正七年大學部哲學科得業)

●大正九年二月十九日死亡

●石川 紹 誓氏 (明治二十六年專修英語科得業)

●今 村 直 澄氏 (大正六年大學商科得業)

●上 田 六 郎氏 (明治二十三年邦語政治科得業)

●山崎憲一郎氏 (明治四十一年推選校友)

●豊富徳太郎氏 (明治三十八年大學部文學科得業)

●片岡 鶴 雄氏 (大正九年二月二十一日死亡)

●野崎 靜 夫氏 (明治四十五年大學部商科得業)

●右諸氏の訃報に接し哀悼の至に堪へず茲に謹て弔意を表す (大正九年三月 早稻田大學校友會)

學 生 會 合

●松本會豫餞會

二月六日午後五時から、江戸川のカーニバルウスタに於て、第二回卒業生豫餞會が催された。大變御多忙中を繰合せて來會された會長田中博士を始め、會員の參會さる、もの十八名、赤穂昌次君の挨拶に食卓は開かれ、順次運ばる、洋食のホークを動かせつ、田中博士の御訓示や御批評を中心として談合に餘念なかつたは恰も一家の團欒せるが如く、折から洩る、ピアノの妙音に清純な耳を傾けつ、詩的感興に打たれた。卒業せらる、諸君の惜別の情に堪へざる感慨あり、かくて丸山三男君の閉會の辭に次で校歌合唱をなし、歡聲裡に散會したの

は七時であつた。顧る過去一年の淡い夢！それは決して幻滅の悲哀には終らなかつた。其處に松本會の意義と生命が存する。當夜の出席者は次の如し

會長 田中博士

卒業生 (順序不同)

上條 愛一 小野 勝淨

小池 濟 赤澤喜久男

石塚 輝郎 百瀬 義雄

學生矢崎 計馬 市川 清

岩垂 靜馬 赤穂 昌次

田中 二郎 降旗 徳彌

折井勘五郎

小口 友幸 宮坂 泰平

篠崎 茂男 丸山 三男

●早稻田大學自彊術會之創立

世界の改造は目下の急務である。しかも一昨年以來世界的惡疫が流行したので、殊に體育改造の急務なることを痛切に感ずるのである。

吾人は日頃の實驗により、此所に自彊術を以て大自然が吾人人類に與へたる體育改造の大福音にして世界改造の源泉なりと信じ、普ねくこの大福音を世の中に宣傳し、且つお互に實踐し躬行したい所から、早稻田大學内に自彊術會を組織したのである。

本會は、左の順序で、二月十四日(土)午後一時から本科二十教室で創立紀念大講演會を開催した。當日は諸種の會があつたにもか、はらず、會衆凡そ三百、なか／＼盛會であつた。

本會々員は、目下凡そ學生百五十餘名教職員二十名であるが、日々入會者の絶えない有様である。本會創立に就いては、十文字大元先生・松平教授・渡

講師・永井教授・大法三年三文字一郎君・大商三年大辻英之助君等の勞に負ふ所が多つた。特に感謝してやまない次第である。

本會は二月十六日以來毎日午後四

時から本大學柔道場で練習を開始して居りますから、入會希望の方は、道場で幹事に名刺を出してその旨を話して下さい。

創立大講演會順序

- 一、開會の辭 三文字一郎
- 一、演説 學長 平沼 淑郎
- 一、挨拶 會長 松平 康國
- 一、自強術に就て 十文字大元
- 一、實驗談 學生 大辻英之助
- 學生 龜井 良夫
- 副會長 渡 俊治
- 講師 崎田喜太郎
- 教授 永井 一孝

- 一、閉會の辭 三文字一郎
- 一、自強術實驗 會員有志五名

本會幹事は三文字一郎君・大辻英之助君・荒川藤一郎君・龜井良夫君である

二月十六日幹事報

●讃岐玉藻會豫餞會

本年度卒業生の爲め、會長松平頼壽伯の招待にて、二月十四日夕刻より例年の如く本郷三丁目燕樂軒樓上に開會。吾が大學より松平伯・鹽澤教授を始め同縣出身の牧野謙次郎・中村萬吉の兩教授出席、來會學生五十餘人にして昨春同様の盛會なりき。先づ松平伯の訓話を承る。鹽澤教授には、「社會道徳、個人的自制が畢竟各人の人間的自覺を意味すべきことを道破せられ、更に刻下の思想問題に論及し、各主義は現實の生活に對すれば單に一部のみの全

部に對する一部としての眞理はこれもあるも現實の生活は、是等各主義の相和を以てしては足らず。當に相乘ならざるべからず」と結論せられ、多大の感動を與へられたり。(M、N、報)

●大正三年謝恩會

二月二十一日午後三時より、大政三年謝恩會を永樂俱樂部に於て開く。恩師の臨席されたるは、平沼學長、安部科長を始めとして、内ヶ崎・青柳・佐竹高橋・ベニホツフ・久松・渡の諸先生にして、學生の出席したるもの八十餘名に及びり。早稻田の學園に學ぶこと茲に四年、校門を辭するの日月餘の後に迫れる時、年來の薰陶を受けし恩師を迎へて、既往を追懐し、將來を談ずること、我等にとりて如何に喜び多きことよ。過去四年の早稻田生活を通じて此の夜ほど感慨に満ちたるはなく、又此の夜ほど顫躍の情に燃えたるはなかりき。井上厚三郎君司會の下

に先づ除數番を行ふ。金森・赤松兩君の二部合唱「懐舊の歌」あり、本田君の浪花節には内ヶ崎先生腹を抱へて哄笑せられ、佐藤君の清本は立人も跳足なりき。その他相良・市瀬兩君の劍舞、赤松・五藤兩君の「六段」の合奏、林川如燕君の講演「水戸孝子傳」等それぞれに興を添へたるが、殊に學長の詠曲「鞍馬天狗は、その朗々たる聲と共に、かゝる席にふさはしき一種の變遷たる氣分を漂はしたり。午後六時食堂

を開き、デザートコースに入るや、吉澤辰二君は立ちて謝恩の辭を述べ、之れに對して平沼學長及び安部科長の挨拶あり、學長は、戦後社會の激變したることを述べられ、「今後の社會は新時代の教育を受けたる諸君の奮闘に俟つもの大なり」と激勵せられ科長は「諸君の目標とすべきは Leadership の資格を得ることあり。それには職業に拘はる、ことなく常に大人物たるの修養と用意を怠るべからず」と説かれ、最後に安部科長の發聲にて「早稻田大學萬歳」を三唱し、「都の西北」を高唱し、散會したるは八時半なりき。此の夜大山郁夫先生が懇々會場まで挨拶に來られたること、菊地晚香先生が「改造論争風雨號激昂人氣似奔濤拍門卒業多英俊期見濟時功績高」との祝詞を寄せられたるとは、我等の感激措く能はざる所なり。(委員記)

●支那協會例會

二月廿四日午後六時、矢來俱樂部に例會を開く。此の日雪を衝いて集まるもの青柳會長・清水先生を首めとして會員三十餘名。會員和泉多助君の新借欸團問題に就きての詳細なる研究及意見の發表あり。又清水先生には「對岸の火災か焦眉の問題か」と題し、朝鮮獨立運動に關しては滿洲に於ける貧鮮人の陰謀の與つて力あると、此の徒輩を懐けんには經濟上の援助を與へて生活上の安定を得せしめ、以つて

善政を布くを可なりとすとの根本問題に就いての御高見發表あり。是等の問題に附隨して、青柳會長より綿密なる御談あり、且つ會員の質問に對して懇切に應答せらる。近來稀に見る愉快なる會合にして、和氣霽々裡に十一時散會せり。(刀聖記)

●都市政策學會々報

○趣意書 前月號に記載せる如く、本會が實地踏査を爲すに當り、大方諸賢の協力を煩はさんがため、左の趣意書を印刷して當局者又は篤學の士に頒布することとしたのである。校友諸君に於ても、尙一臂御援助あらむことを希望する。

趣意書

這回の世界大戰の影響を受けて生活の辛苦を痛感したる我等は茲に自己反省を爲す可き好機會を與へられたるが其結果從來の政治が殆ど社會生活の心髓に觸れず、徒に不徹底なる施設と浪費のみ多くして是が實蹟の觀る可きもの少かりし所以のものは主として政治を宛らも政略の如く思惟せる一部野心家及び利益階級の爲めにせむとせし所爲なる事を感得するに至り先づ自己の生活に對し第一次的に至り又其交渉する所最廣く且大なる地方自治即ち都市及び農村生活の自發的改善に嚆目し來れり宜なる哉歐米に於ける諸國民は夙に自治生

活の人間生活上重要な事を自覺し或は諸般の都市計畫社會的施設に又は自治機關の改善に銳意勵勵し以て自己等の文化的發達を圖ると俱に都市及び農村政治をして經濟的能率的たらしめむ事を期し、著々として是が實效を收め來れり夫の從來比較的農業を等閑視し來れる英國に於てすら這回の大戦の教訓に鑑み種々農村の施設經營を爲すに到れるを見る

顧みて我國に於ける地方自治の過去並に現狀は如何久しく有識者等に依りて喧傳論争せられし農村の荒廢農民の疲弊及び是が救済策は其聲や大なりしと雖も殆ど成果を見る能はず偶々歐洲大戰の勃發は茲に一般物價殊に米價の未曾有の奔騰を招致し一見農民をして早天甘雨の想あらしめたるが如しと雖も其實は依然として土地の兼併分配の不正の行はる結果從來永く封建的温順の民として或種の希望を繋げる農民の間にも漸次階級的意識を生ずるに至れり又他方都市生活に於ても市民は實政に無關心なる事茲に數十年有識者經世家は時に警鐘を亂打する事ありしも多所多く事の皮相を走り眞に市民に親切ならざりき斯て最近漸く一部市民の間に勃興し來れる都市意識も久しく放任主義の下に置かれたる都市生活の不規則亂雜なる現狀に面しては其企畫すべき事業の餘りに多端なるに轉た望洋の嘆無き能はざる也

斯の如く我社會に於て自治の振はざりし所以のものは其原因や多々ありむも最根本的なるは蓋し一般國民が都市及び農村の實情に暗く隨て彼等の生活に適切なる方策を樹て得ざりしに職山せずんばあらず惟ふに由來如何なる名論も其根柢に確固たる事實を認識するに非れば夫は一箇の主觀的獨斷論に過ぎずして間々極端なる破壊的行動を煽動するに至るものなり即我等同志茲に深く鑑る所あり都市及農村の實情を科學的なる立場より精査探究せむとして本會を設立するに至れり既に我等の目的が在りが儘なる事實の中正的研究にある以上力めて一切の主觀的乃至階級的偏見を超越するは勿論の事に屬す然り我等は事實に基く中正的研究を以て人間生活の向上發展を促す所以の最善の道なる事を確信する者なり茲に本會設立の趣意を宣明するに當り大方諸賢の協力を煩はさんと欲す

大正八年五月
○全國各都市寄贈圖書追加、其後各市より到着せる寄贈圖書は左の通り
松江市職員錄
堺市條規類纂
大正八年堺市統計書
堺市學事一覽表
會社票
堺市工產物番附
鹿兒島市統計書
八幡市勢一覽

長崎市統計一斑
長崎市條規規則(未着)
岐阜市例規類集
岐阜市統計一斑
山形市誌
山形市要覽那覇區例規類集
那覇區勢一斑
那覇學事一覽表

●廣告研究會々報

△舊幹事豫餞會 本會の隆盛期から今日の中興期まで、本會の爲め盡力せられた舊幹事諸兄が今春卒業せらるるに付て、過去の勞を謝し併せて將來の助力を願はんと、會員一同去る二月十日萬世橋ミカドで豫餞會を舉行した。席上本會を思ふの情厚き舊幹事諸兄には、卒業の紀念にとて連名で本會に寄附金を惠與せられた。依つて難有受納して早速本會維持費に加へた。本年卒業の舊幹事諸兄は左の如くである。

野田大造君、 松崎兼松君、
佐山芳雄君、 渡邊光司君、
△心理學の實驗 追々活動を盛にして來た、本會は廣告研究の根本となる心理學の實驗を、今學期には、恩賜館内の心理實驗室で數回行つた。指導は斯界の名士上野陽一氏であつて、會員一同は氏に就いて深く研究した。
△石川島造船所見學 例によつて二月七日此造船所を訪ふた。當日は八千噸の關渡艦及び、五千噸の商船が船

臺に置かれてゐた。
△三越別館見學 二月十四日丸の内を訪ふた、勞資協調、店員待遇、といふやうな諸種の問題の喧しい時、デパートメントストアのオーソリチーたる此の店員寄宿待遇法を見たので、大に得る所があつた。
▽新大學令に依つて、本大學の選擇課目として「廣告」の一課が置かれたのを本會は喜ぶのである。本會は將來此課と共同して努力したいと思ふのである。(九、二、廿七、菊水)

●柔道部記事

十月十日 午後二時より、當道場に於て新入部員歡迎試合を舉行す。早川應崎、兩二段を各大將とせる大紅白勝の後、二宮三段の初段七人掛、中瀬三段の二段三名初段二名都合五人掛等あり。勝負後、部員一同胸襟を開き晩食を共にす。
十一月七日 講道館に昇段式あり。校友の部に於ては、師範宮川五段の六段に、藤四段の五段に坂梨・中垣内・荒木各三段が四段に、中島二段の三段に其他二段に一名。部員側に於ては庄村・堀・早川・安岡・應崎各二段が三段に其他二段に五名、初段に四名の多數昇段せるあり。實に本部の誇とするに足るべし。
十一月十六日 本部第二十四回柔道大會を舉行す。午前八時より部員大紅白勝負を行ひ、午後一時より對部試合

五組、各學校選手無段者三本勝負三十組、有段者三本勝負二十七組、阿部四段の五人掛講道館型等あり。續いて部長の挨拶、賞品授與を終へ、一同に饗應ありて散會す。
大會散會後一同は、直ちに神樂坂俱樂部に到りて懇親宴會を催す。出席者部長を始め校友十餘名、部員數十名にて、非常なる盛會なりき。
十一月二十日 我か柔道部は、一週間の豫定にて信越北陸地方に遠征を企つ。蓋し此の行に依り、我等は廣く地方の剛健實質なる青年に對し、世界の雄大勢日本の世界的地位を説き、併せて我々青年をして直に世界的に覺めしむる機會を作らんとはしたるなり。即ち一行、師範宮川一貫・校友居藤高季・部員依田誠・高廣三郎・堀孝一・中瀬直雄・二宮宗太郎の各三段、水島義雄・佐々木東湖・兩二段、以上九名。同夜七時半、數多の部員及び各運動部々員の見送りを受け、校歌萬歳聲裡に上野を出發して新潟に向へり。

十一月二十一日 午前八時四十分新潟市に着く。醫學學生の案内にて市街を見物し、午後三時より新潟醫學の道場に於て講演及び稽古を爲し、夕同校の招待會に臨み、大野旅館に旅の第一夜の夢路を辿りぬ。
十一月二十二日 午前十時新潟市を去り、正午長岡市に着く。直ちに長岡中學に赴き講演稽古を爲し。終りて一同茶菓の饗應を受く、午後五時半同市

を去り、六時廿分柏崎を過ぐ。同驛歩廊に我が部員石黒敬七(三段) 柏崎中學柔道部員を引率して我等一行を迎へ、早大柔道部宮川師範の萬歳を三唱して以つて此の行を盛にならしめき。石黒君此處より一行に加はる。午後八時高岡市に着き、三友館に投宿。
十一月二十三日 午前八時半高岡中學に赴く。師範例に依り一時間半に互る大講演を爲す。一同稽古後晝食、謙信文庫を見る。一行は同地の親戚宅にて一泊せらるる宮川師範と別れて高田驛を去り、直江津富山市を過ぎて福岡町に着、高廣君宅に赴き大歡待を受く十一月二十四日 福岡を去り、正午頃高岡市に着き、一時師範を同驛に迎へ直ちに高岡中學に向ふ。同校に於て又講演稽古を爲す。終りて一同自動車に分乘して梅松園の歡迎宴會の席に列なる。

十一月二十五日 高岡市見物後午前十時半同地を出發、十一時半金澤市に着く。四高學生の案内に兼六公園を見る。三時より四高の道場に於て講演稽古を爲し、山中温泉に一夜の清興を味ふ。
十一月二十六日 正午頃同地を去り、大聖寺驛より名古屋に向ふ。午後十時名古屋着。土地の柔道界の諸氏及び校友先輩の斡旋を忝うし、東區富澤町なる大松旅館に投宿。
十一月二十七日 午前中名古屋市を見物し、午後より愛知一中に到り、同校

生徒及幼年校生徒に對し講演稽古を爲す。越後に歸る石黒三段と、神戸に赴く佐々木二段とを除き、一行は夜十時名古屋市を去り東京に向へり。

十一月二十八日 午前六時横濱着。二宮三段下車す。七時一行は無事東京驛に着きぬ。

十二月四日 本年度納會を舉行す。集る者數十名。無段者・有段者の三本勝負を行ひ、終りて宮川師範の有益なる訓話あり。中瀬三段の遠征に就きての報告、師範の遠征に就きての側面觀の語あり。終りて晚餐を共にす。當夜又來春卒業する、委員の後任者を選議し、高廣・庄司・埴の三氏の後任として庄村・安岡・中瀬の三氏を補せり。

大正九年一月十一日 講道館に於て鏡開式昇段式舉行。校友の部に於ては倉田四段が五段に、野口・門間兩三段が四段に、上遠野・阿部兩二段が三段に、其他二段に三名、部員之部に於ては、石黒三段が四段に、虎戸・木下・荒野・杉山・水島・澤田各二段が三段に、其他二段に八名、初段に一名、夫々昇段せり。

一月十五日 本日より向ふ三十日間寒稽古を開始す。石黒四段以下、三段・二段・初段・段外併せて七十餘名、未明の天地に疊城肉彈の響勇まし。

二月一日 無級者の審査を舉行し、一級に二名、二級に四名、三級に三名の編入者を得たり。

二月十一日(紀元節) 例年の如く午前九時より寒稽古納會を舉行す。杉山三段の開會の辭、氏家部長の訓話等ありて直ちに紅白勝負に移り、各自酷寒に鍛へし優技を發揮し、兩軍能く戦ひたり、庄司三段の二段五人掛あり。勇壯なりき。右終りて寒稽古皆勤者本年

前九時より寒稽古納會を舉行す。杉山三段の開會の辭、氏家部長の訓話等ありて直ちに紅白勝負に移り、各自酷寒に鍛へし優技を發揮し、兩軍能く戦ひたり、庄司三段の二段五人掛あり。勇壯なりき。右終りて寒稽古皆勤者本年

謹告

拜啓 愈々御清穆奉賀候陳者本年度(大正九年度)本校友會維持費受領の爲め地方御在住の方々に對しては集金郵便にて又京濱間御在住の方には集金社々員差遣し申候間何卒此際御醸出被成下度豫め御通知申上候尙御留守中にて差支無之様御取計置きの程願上候 敬具

大正九年三月

早稻田大學校友會

校友各位

度の皆勤者三十餘名なりに對し、賞品を授與せり。又三ヶ年皆勤者に對し特別賞品を贈呈。晝食後一同恩賜館前に於て紀念撮影を爲す。

午後三時より、やきもち坂上常敬寺に於て柔道相撲兩部員なりし故田原

雜報

●大隈總長の天機奉伺

二月廿六日、總長大隈侯爵には、嗣子信常氏を隨へ、八時十五分東京驛發葉山御用邸に伺候し、天機竝びに御機嫌を奉伺して、即日(三時十五分東京驛着)歸京せられたり。

●平沼學長の出張講演

▲二月十七日、平沼學長には、眞宗講話會の聘に應じ、「眞俗兩諦」と題し講演せられたり。

▲二月十四日、平沼學長には日本弘道會の依頼により、西小川町なる同會講堂に於て「隨時順應」といふを題に、約一時間講演せられたり。

▲二月二十日、平沼學長には、神奈川縣立工業學校の議員生徒の爲めに、「新時代の傾向」に就きて講演せらる。

●高等學院事務主任と定

金右源二氏

高等學院の建築も殆ど竣成し、三月より教務事務を開始すべきに付き、今回校友定金右源二氏を事務主任に囑任し、既に二月初めより本部内に於て執務しつつあり。

●熱烈なる高等學院入學

志願者

新設高等學院に對する一般學生の囑望は極めて猛烈なるものにして、先頃毎日時間を限り校門にて規則書を頒ちつつありたるが、希望者常に門前に長蛇の如き列を作し、既に一萬三千部を頒與し盡して尙足らざるの盛況にありと。

●坪内博士作「法難」劇の上演

昨年末講堂にて素讀せられたる坪内博士苦心の脚本「法難」は、東儀氏以下新文藝協會の一座が二月間の練習を経て、愈二月廿五日より三月十日迄十五日間明治座に於て上演するに至れり。久しき期待の後とて、各方面よりの總見申込非常に多く、連日滿員の盛況にありといふ。

●早稻田購買組合と大正購買組合の併合

二月二十二日午後一時、矢來俱樂部に於て早稻田購買組合總會を開き、組合全部解散の件、大正購買組合に合併の件及其の他につき協議せり。

●故本田信教君遺子教養資金願募諸彦氏名金額(四)

一金拾圓
早速 整爾殿

一金五圓

紫安新九郎殿

一金參圓

難波理一郎殿

一金貳圓

富永一郎殿

一金壹圓宛

田井善道殿

俵谷由之助殿

大正八年度下半期
維持費醜出者氏名報告

大正八年度下半期
維持費醜出者氏名

一金壹圓宛

志手環 三好七郎
菊地悟郎 山内不二雄
中村康之助 吉田靜致
兒林百合松 密田良太郎
長谷川誠也 馬場恒吾
石尾信太郎 稻毛金七
小笠原勳一 豐田大誓
榊原立龍 齊藤隆夫
佐治敬吾 淺岡哲
錦織幹 龜井齋平
川村久輔 栗山善之助
栗原利平 松本恆之助
前田功 松野正信
松江房次 植村與平
繁野珠城 宇治川良太
上原吉太郎 並木覺太郎
村上謙吉 中島敬三
中山好次 中村恭太郎
永井彌彦 高木光教
竹内善太郎 吉川利一
吉村繁俊 好地昇之助
佐久間小一郎 寺田茂照
安藤馬之助 片谷傳造
早瀬太三 川崎新吉
笠松實

川添恭造 宮木昌常 牧野菊之助 石原謙 岩堀智道 遠田亮 山田義一 荻野元太郎 岡田爲吉 大橋爲次郎 增田德三郎 松尾善三郎 松谷善三郎 鈴木理平 鈴木光治 杉本光治 關谷繁太郎 野本福太郎 武藤重太郎 奈良秀治 高橋八郎 伊達光美 橫澤正督 三上德三郎 鬼頭忠一 伊藤保美 伊藤農夫 石井久太郎 新井忠吉 青木俊明 西川吉太郎 山川瑞三 木村半之助 戸水寛人 保科孝一 池田銀次郎 滿田徹 久松定省 大島忠雄 大森喜六 大西新八郎 牧野繁 五明砂 小江敏 杉江敏 杉田駿 小穴秀一 村山欽治 中野震藏 竹中保壽 高橋傳三郎 田中藤吉 吉川道男 清野秀丸 伊東忠太 長谷部金五 安藤正純 青木謹吾 寺田正三郎 川村三郎

山路虎之助 加藤幸吉 山本信政 山本謙太郎 山本萬吉 山本英造 藤尾孝輔 福原雄之助 島富榮 盛山知利 鈴木德太郎 田中秀穂 吉田嘉市郎 廣井彦一郎 宮崎良治 三木喜延 矢津昌永 津田左右吉 酒井秀磨 伊藤五郎 馬場勝次郎 稻垣浩 今西謙也 小川兼四郎 東郷時之助 齊藤時之助 淺野玄府 足羽忠道 原達平 勝田加一 工藤彰 渡田千城 前田三郎 古林龜治郎 小瀧辰雄 廣瀨辰雄 瀨田武 下村清三郎 久間信治 後藤忠太郎 淵川忠太郎 安井盛三 大橋誠一 橋津貞二 川村純藏 柿内照康 西村清一 朝倉龜三 齊藤幾太郎 星野銀吾 小笠原義之 池田龍介 猪瀨美計 石井新一 井上仁 伊東三郎 松山忠二 本田親二 村田榮太郎 木内義太郎 水島久而 清水德太郎 橫田吉人 吉田秀人 立川勇次郎 鈴木保郎 瀨沼寛二 久恒立雄 小林岩次郎 松本健之助 增田彦太郎 山本信政 山本謙太郎 山本萬吉 山本英造 藤尾孝輔 福原雄之助 島富榮 盛山知利 鈴木德太郎 田中秀穂 吉田嘉市郎 廣井彦一郎 宮崎良治 三木喜延 矢津昌永 津田左右吉 酒井秀磨 伊藤五郎 馬場勝次郎 稻垣浩 今西謙也 小川兼四郎 東郷時之助 齊藤時之助 淺野玄府 足羽忠道 原達平 勝田加一 工藤彰 渡田千城 前田三郎 古林龜治郎 小瀧辰雄 廣瀨辰雄 瀨田武

野村半平 中川重政 竹上三郎 柴谷龍寬 三澤富藏 岸澤孝一郎 崎山朝盛 井上龜六 及川銀太郎 星野新一 坂本龍一 天野龍齊 笠井誠太郎 久能木誠一 大澤準二 小島七郎 下田基治 森田基治 生方貞一 村上清一郎 辻一雄 吉岡正夫 吉岡弘 宮山勝 木守治 橫山有策 昆田文二 今田和二郎 橋本良藏 飯坂留雄 飯田新太郎 飯田順作 印牧秀光 小津幸衛 齋藤恒助 齋藤邦次郎 佐野昇六 青木浩 野木篤 野村重政 中川三郎 竹上三郎 柴谷龍寬 三澤富藏 岸澤孝一郎 崎山朝盛 井上龜六 及川銀太郎 星野新一 坂本龍一 天野龍齊 笠井誠太郎 久能木誠一 大澤準二 小島七郎 下田基治 森田基治 生方貞一 村上清一郎 辻一雄 吉岡正夫 吉岡弘 宮山勝 木守治 橫山有策 昆田文二 今田和二郎 橋本良藏 飯坂留雄 飯田新太郎 飯田順作 印牧秀光 小津幸衛 齋藤恒助 齋藤邦次郎 佐野昇六 青木浩 野木篤

濱口了祐 早川了祐 山形吉太郎 八橋德太郎 加藤松四郎 大澤慶作 前田孝一 先光孝 福田龍一 福田龍一 泉直吉 上野誠一 森源作 山口榮吉 栗原雅信 伊地知季繁 海老塚進一郎 櫻井省三 栗田正治 中原望繁 鷹見久太郎 橫尾清 木山十彰 牧野謙次郎 濱口了祐 濱島精一 編田芳造 矢田陸介 倉田達 荻島信泉 大濱信泉 二上德藏 小林節高 平野高 關口吾一 光富英 能島通明 三宅磐 島崎一 後藤房吉 古木俊治 荒島信雄 江澤欽司 永井清志 竹下文隆 田中啓次郎 草野豹一郎 松井等 鹽澤昌貞

大正九年三月十日印刷
大正九年三月十日發行

東京市牛込區白銀町二十九番地
三十五號
編輯兼發行人 前田 多藏
東京市牛込區櫻町七番地
印刷者 渡邊八太郎
東京市牛込區櫻町七番地
印刷所 日清印刷株式會社
府下豐多摩郡戶塚町字下戸六六
四十七番地
早稻田大學
發行 所早稻田大學校友會

判事ヲ辭シ辯護士ノ業務ニ 從事ス

前東京地方裁判所判事
前横濱地方裁判所判事
前京城覆審法院判事

早稻田大學法學部出身

從六位

波野平四郎

法律事務所

東京市京橋區北紺屋町四番地
電話 京橋 八九六番
橫濱市辨天通五丁目九十番地
電話 本局 一〇七三番

中學校及高等學校用 英文教科書類

Advanced English Prose. (Postage, 6 sen).....	.65
Bryan's The English Echo. Book I. (Postage, 6 sen).....	1.10
Bryan's The English Echo. Book II. (Postage, 6 sen).....	1.50
Bryan's The English Echo. Book III. (Postage, 6 sen).....	1.10
Coates and Noda's practical Conversation in English & Japanese. (Postage, 12 sen).....	1.50
Ellis. A Trip to America. With Notes. (Postage, 8 sen).....	1.50
Help's Essays Written in the Intervals of Business. With Introduction and Notes. (Postage, 6 sen).....	.40
Macaulay's England before the Restoration and the State of England in 1685. (Postage, 6 sen).....	.50
Prose Readings. (Postage, 8 sen).....	.65
Rusain. Sesame and Lilies. (Postage, 6 sen).....	.50
Selections from Huxley's Lay Sermons, Addresses and Reviews... (Postage, 6 sen).....	.70
Selections from Mill's Political Economy and Spencers's Study of Sociology. (Postage, 8 sen).....	.70
Selections from Mill's Representative Government and Spencers's Study of Sociology. (Postage, 6 sen).....	.70
Seymour's More Grammar Lessons. (Postage, 6 sen).....	.60
Smiles' Self Helps. (Postage, 6 sen).....	.70
Stephenson's Useful Questions and Answers. (Postage, 6 sen).....	1.20
Stories from Sexton Blake. (Postage, 6 sen).....	1.00
The Tower of Silence and Other Stories. (Being Volume II of the Stories from Sexton Blake. (Postage, 6 sen).....	.85
Mademoiselle Justine and Other Stories. (Being Volume III of the Stories from Sexton Blake.) (Postage, 6 sen).....	.78
Blake in Wey's Copse and Other Stories. (Being Volume IV of the Stories from Sexton Blake. (Postage, 6 sen).....	.85
Terry's The Common Law. (Postage, 24 sen).....	8.00
— The First Principles of Law. (Postage, 12 sen).....	1.50
The Three Homes. (Postage, 6 sen).....	1.30
Twentieth Century English Essayists. Vol I. (Postage, 6 sen).....	1.00
Twentieth Century English Essayists. Vol II. (Postage, 6 sen).....	.80
Yashiro's Model Art Criticismus. (Postage, 8 sen).....	1.80

町西上岡福
(番千五岡福替換)

町分國臺仙
(番五一臺仙替換)

通橋本日京東

社會式株善丸

(番五京東替換)

筋橋齋心阪大
(番四七阪大替換)

通條三都京
(番三七一阪大替換)

大學生學格に伴ふ我が五大講義録の大改造と見よ

早稻田大學講義録

總長隈大限侯爵指導—經營十三有餘年

世界改造の新機運に應る智識の源泉

政治經濟科	法律科	中文學科	中學科	商業科
-------	-----	------	-----	-----

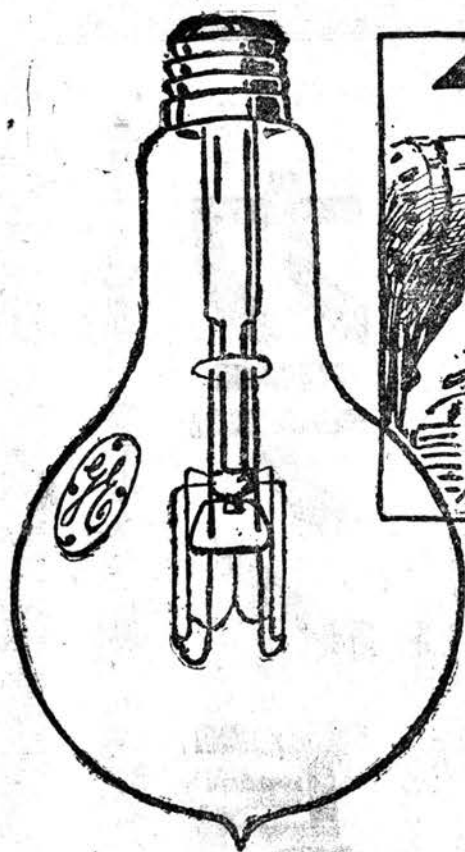
了修月ケ八十 號一第 行發日十月四	了修年箇二 號一第 行發日三月四	了修月ケ八十 號一第 行發日八月四	了修月ケ八十 號一第 行發日七月四	了修月ケ八十 號一第 行發日六月四
-------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

書葉に於て申込次第各科見本規則書直にち送呈す

電話三三三
四七三
五二四

早稻田大學出版部

東京牛込區



商標  登録

エジソンランプ (GE Edison Lamp)

英國工場監督官曰く

「良き照明は工人の作業能率を高め傷害を減少す實に工場發展は良照明に俟たざるべからず」とマツダランプ採用の工業家諸氏は必ずや其言に首肯せらるべし

神奈川縣川崎町
東京電氣株式會社
 東京市京橋區銀座尾張町一ノ二 電話一三七〇 電報三三三
 大阪市西區阿波堀通一ノ五 電話一三三〇 電報三三三
 部出 門司市四本町三ノ二九 電話一三三〇 電報三三三
 廣所 名古屋、仙臺、札幌、大連、上海、

東洋一の化粧品工場で出来た世界的の優秀石鹼

カチイ石鹼

純真石鹼の製造に四十五年の經驗を有する
クラブ本店技師英人ウエンライト氏製造擔任

最新式の.....「書きよい萬年筆」

プラトニ萬年筆

インキの出具合極めて宜しく
ペンの走り最も滑らかなり

賣發新店本磨齒ブラク

小生不肖ヲ顧ミズ牛込區ヲ選舉
區トシテ再ビ衆議院議員候補者
ニ相立申候ニ付例ニ依テ全國校
友並ニ關係者諸君ノ御聲援ヲ悃
願仕候

憲政會公認

衆議院議員候補者

大正九年三月

三 木 武 吉

早稻田大學校友
同關係者 諸君

第參回 (自大正八年一月一日) 決算公告

(至同年十二月卅一日)

株定積立金	七、〇〇〇、〇〇〇	郵便振替貯金	七、二七、七二八
法途積立金	二、五〇〇、〇〇〇	銀行預金	四、五七、〇〇〇
別途積立金	七、二五、〇〇〇	貸付金	二、七〇、九一五
責任準備金	八、四八、〇〇〇	有價証券	一、〇七、七二八
支拂準備金	一、四八、〇〇〇	未收保險料	二、一〇、九一五
社員積立金	八、四八、〇〇〇	借家敷金	三、〇一、八〇四
未拂再保險料	五、三〇、〇〇〇	假拂金	一、〇二、七〇九
未拂海上保險料	五、〇四、三三三	計	三、〇一、八〇四
未拂受保金	五、〇四、三三三	本年度利益金	一、一六、七一一
未拂保險金	五、〇四、三三三	利益金處分	一、一六、七一一
計	三、〇一、八〇四	法定積立金	二、五〇〇、〇〇〇
未拂込株金	一、五〇〇、〇〇〇	別途積立金	七、二五〇、〇〇〇
現通金	三、〇〇〇、〇〇〇	役員賞與金	一、〇〇〇、〇〇〇
右之通ニ候也	三、〇〇〇、〇〇〇	株主配當金(年九分)	二、四七、七〇〇
大正九年二月	三、〇〇〇、〇〇〇	次年度繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇

日章火災海上再保險株式會社

取締役會長	前島 祐 彌
專務取締役	曾我 祐 邦
取締役	田中 四郎 左衛門
取締役	山 邑 太 三
取締役	村 井 五 郎
取締役	森 盛 一 郎
監査役	田 中 小 太 郎
監査役	高 山 圭 三
監査役	西 尾 謙 吉
相談役	相 談 役 博 士 高 田 早 苗
相談役	相 談 役 山 田 英 太 郎
相談役	相 談 役 橫 山 章

追テ取締役任期滿了ノ處改選ノ結果全部重任セリ

大正九年三月(毎月一回十日發行)

御遊金の御投資に就ては
極めて懇切御有利に御相
談可申上候



日章信託株式會社

東京市京橋區南八丁堀一ノ五

電話京橋(特長) 一七九四 七九四八 四四四

取締役會長	田中 四郎 左衛門	監査役	山 邑 太 三 郎
專務取締役	田中 小 太 郎	監査役	南 方 常 楠
取締役	杉 田 駿	監査役	關 和 知
取締役	西 尾 謙 吉		
取締役	森 盛 一 郎		
取締役	小 原 元 美 郎		
取締役	田 島 一 義		
取締役	酒 井 醇 一		